

2024

# 内部評価 報告書

九州大学・久留米大学・福岡大学・産業医科大学・  
佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・  
宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学



次世代の九州がんプロ養成プラン

TRAINING PROGRAM FOR NEXT-GENERATION HEALTH PROFESSIONALS  
WITH CANCER CARE IN KYUSHU

# 次世代の九州がんプロ養成プラン

## 令和 6 年度 内部評価報告書

### 目次

タイトル	ページ
はじめに	2
自己評価一覧	3
九州がんプロ全体の内部評価	4
各大学の内部評価	11
九州大学	11
福岡大学	20
久留米大学	22
産業医科大学	25
佐賀大学	28
長崎大学	32
熊本大学	36
大分大学	41
宮崎大学	47
鹿児島大学	52
琉球大学	54
数値実績一覧	56
セミナー・シンポジウム等	56
満足度調査／指導技術向上等のための FD／ホームページ・SNS 更新	58
教育プログラム・インテンシブコースの受入実績	59
受験・合格・資格取得者	61

# はじめに

『次世代の九州がんプロ養成プラン』は、九州内の 11 大学（九州大学・福岡大学・久留米大学・産業医科大学・佐賀大学・長崎大学・熊本大学・大分大学・宮崎大学・鹿児島大学・琉球大学）が参画する事業であり、文部科学省が行う『次世代のがんプロフェッショナル養成プラン』事業（令和 5 年度～令和 10 年度）の採択を受けて活動しています。

本報告書は、令和 6 年度（令和 6（2024）年 4 月 1 日～令和 7（2025）年 3 月 31 日（見込み））の実績を取りまとめ、各大学・プラン全体での自己評価（内部評価）を行ったものです。

なお、本報告書をもとに外部評価委員の先生方による第三者評価をいただくことで、次年度以降、客観的視点も踏まえた事業改善を行い、がん専門医療人材を養成して参ります。

※内部評価は、平成 29 年度から毎年継続して実施しています。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」  
令和6年度内部評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている /  
c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

○「次世代の九州がんプロ養成プラン」全体としての自己評価

九州がんプロ	b:目標を達成できている
--------	--------------

○各大学の自己評価

九州大学	a:十分に目標を達成できている
福岡大学	c:あと少しで目標を達成できる
久留米大学	b:目標を達成できている
産業医科大学	c:あと少しで目標を達成できる
佐賀大学	c:あと少しで目標を達成できる
長崎大学	b:目標を達成できている
熊本大学	b:目標を達成できている
大分大学	b:目標を達成できている
宮崎大学	c:あと少しで目標を達成できる
鹿児島大学	c:あと少しで目標を達成できる
琉球大学	c:あと少しで目標を達成できる



## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

代表校	九州大学
連携大学	久留米大学、福岡大学、産業医科大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学
事務担当者	九州大学医系学部等事務部 学務課 黒添 俊英

## 1. 概要

## 補助事業の目的・必要性 総論

九州の11医療系大学大学院が、過去16年にわたる密接な連携を基盤とする拠点を形成し、第4期がん対策推進基本計画において求められる人材の育成の強化を実現する。各大学は当該地域のがん医療のニーズも考慮し、大学の規模や特徴に基づいた大学院プログラムを設置して、九州全体で各テーマの人材育成を目指す。テーマに関する専門講義に加え、大学病院の放射線治療、病理診断、がん疼痛緩和、小児がん医療、腫瘍内科等の各部門との強力な連携に基づく実地教育を行う。拠点内の合同講義・研修の実施とともに、eラーニング、遠隔通信を利用した広域にわたる大学間連携を実現し、離島僻地医療や多職種連携を含む教育体制を構築する。特に新規治療法開発やがん予防等の研究を推進する人材育成には、拠点内大学間のみならず、拠点間、国外の医療・研究教育機関と共同で取組み、我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。

## 各テーマに対する今年度の実績

- 全11大学において、計36コース（大学院24コース、インテンシブ12コース）を設置した。本年度は計379名（大学院コース68名、インテンシブコース311名）の新規受入があり、年間を通じて教育を行った。
- 2024年10月に開設した「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」では、本年度は合計74名の新規受入があった。筑波大学が運用するオンライン教育プラットフォームを活用し、多職種の専門医療人を対象とした、がんの様々な課題に求められる専門領域の知識や最新情報を提供した。
- 全11大学のコーディネーター教員を構成員とした「事業運営推進協議会」を設置し、今年度はハイブリッド形式で協議会を2回開催した。九州という広範なエリアにおいて、地域差や大学差を生じさせず、どの大学においても優秀ながん専門医療人材が養成できることを目指し、拠点および大学ごとに予定している事業計画を共有し、本プランの活動をより加速・発展させた。
- 九州がんプロ履修生3名に対して、「日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医」症例実績報告書の作成支援を実施し、85症例分について各がん種の専門家19名で分担し査読および指導を実施した。
- 全11大学のがんプロ在学学生を対象にWEBアンケート調査を実施した。がんプロ事業が提供する教育内容について理解度や満足度、意見を聴取し、現状を把握する事で今後の事業改善に努めた。
- 九州がんプロ公式ホームページでは、「修了者の声」と題したコーナーに、これまでの各大学におけるがんプロコース修了者の記事の掲載を行い、在学生・市民に対して広くがんプロの情報を発信した。
- 例年開催している「九州がんプロ全体研修会」を長崎市にて2日間にかけて開催し、九州がんプロ8大学より26名が参加し、講演とグループワークを行い、がん放射線内用療法や免疫療法、在宅医療について最新知識を習得した上、今後の医療連携のための職種・学生・教員の枠を超えた交流、意見交換を行った。
- 各大学における履修生の研究成果を相互に報告することにより、今後の養成の刺激となるよう、九州がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」をハイブリッド形式で開催した。多職種のがんプロ教員・学生が参加し10大学より60名の参加があった。学生7名が発表を行い、特に優秀な発表を行った上位3名には研究奨励賞を授与した。
- 北部エリア5大学合同による「市民公開講座」を3月に開催を予定しており、放射線治療、がん予防、乳癌の最新治療について講演を行うとともに、がんプロの取組について市民へ情報発信を行う予定である。

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- ・全11大学において、今年度は合計**37名（大学院29名、インテンシブ8名）**が**がんプロコースを修了**した。各コース学生のうち**10名が、がん医療に関連する認定医・専門医資格（がん治療認定医、婦人科腫瘍専門医、放射線科専門医など）を取得**しており、今後、がん専門医療人として九州の医療現場で活動することが期待できる。
- ・全11大学の**がんプロ在学**生を対象にした「**在学生へのアンケート**」をWEBにて実施し調査を行った。今年度のがんプロ教育に対する満足度は高く、多数の学生からがん医療への理解と知識が深まったとの高評価を得る事ができた。今回の調査結果をもとに、次年度以降もより良い教育の提供に努め、がん専門医療人養成に寄与する。
- ・九州がんプロホームページの「**修了者の声**」と題したコーナーに、各大学のがんプロコース修了者**11名の記事を新たに掲載**し、在学生・市民に対して広くがんプロの情報を発信した。今後、本記事を活用してがんプロコース履修者のリクルートに努めるとともに、記事掲載した修了者と在学生の実際の交流を設ける等して、より具体的なネットワークの構築に役立った。
- ・「**九州がんプロ全体研修会**」では、長崎市にて対面開催を実施し、10大学より教員や学生の計26名が参加し、講演や症例検討のグループワークの実施等を通じて交流を深めるとともに、他大学における医療の現状について情報共有を行いがん医療への理解を深めた。特に他業種、他の専門分野の講演を聴くことで、学生は知識を増す機会となり、教員にとってはより横断的な視点でのがん教育を実施する契機となった。
- ・がんプロ履修生による「**教育研究成果発表会**」では、7大学より履修生各1名ずつが発表し質疑応答も行った。他大学のがん研究の進捗状況についての情報を共有することで、自大学での今後のがん研究・教育を発展させるための新たなアイデアを育む場となった。



【教育研究成果発表会】

## 2. 各事業の取り組み状況

### (1) 交付申請書に記載した内容への対応

No	具体的な事業内容	実施計画
①	新たな教育コース（大学院コース、インテンシブコース）を準備・開講する。	7月～3月 新たな教育コース（大学院コース、インテンシブコース）の準備。
②	本プランを有効かつ効率的に運営するため、「次世代の九州がんプロ養成プラン事務局」によりプロジェクトの事務管理を行う。	7月～3月 「次世代の九州がんプロ養成プラン事務局」によりプロジェクトの事務管理を実施。
③	「eラーニング支援室」を中心として、各大学にてeラーニング用コンテンツの作成、提供、維持管理を行う。	7月～3月 「eラーニング支援室」を中心として、各大学にてeラーニング用コンテンツを継続して作成・公開。
④	がんプロ広報室を新設し、本プランにおける取組成果を開示して広く国民の理解をいただく。	7月～3月 新たに「がんプロ広報室」を新設し、本プランにおける取組成果を開示する。
⑤	継続的な履修生確保のため、がんプロ広報室を中心として各大学や本プランホームページを活用し、情報提供を行う。	7月～3月 本プラン公式ホームページを開設・公開し、情報発信を行う。
⑥	各大学において、また各エリア内の大学等が協働し、本プランのテーマに関するシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座等を実施する。	7月～3月 各大学においてセミナー、講習会等を実施。
⑦	がんプロ学生・修了生に対して専門医資格取得のサポートを実施。	7月 専門医資格取得支援を実施。
⑧	事業運営の意思統一、円滑な運営のため、「事業運営推進協議会」会議を開催する。	8月、2月 「事業運営推進協議会会議」を開催。
⑨	国内外医療機関、他拠点との連携教育や交流活動を実施し、教育の連携体制を構築する。	9月～3月 国内外医療機関等を調査し、連携体制構築のための協定締結に向けて協議。
⑩	本プランの参加大学共同による研修会を実施する。	11月 九州がんプロ全体研修会を開催。
⑪	がんプロ学生・修了生による教育研究成果発表会を開催する。	1月 教育研究成果発表会を開催。
⑫	各大学において事業の実績・成果報告書を作成し、内部評価を実施する。	12月～1月 内部評価を実施。
⑬	事業の進捗状況を評価するため、外部評価委員による評価を実施する。	3月 外部評価委員による評価を実施。

No	実績	成果（学生教育の観点での成果について記載）
①	大学院 24 コース、インテンシブ 12 コースにて学生を受入。	18 コースにおいて当初の受入目標を達成した。
②	事務局を九州大学に設置し、今後の具体的な事業計画を策定した。	次世代のがんプロフェッショナルを養成するための事業計画・評価指標を定め拠点内で共有することができた。
③	10 月に「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」を開設した。	九州全体より 74 名の履修生を受入れた。また、講義の録画・編集を行い、アップロードの準備を進めた。
④	がんプロ広報室にて、本プラン情報発信の企画・検討を行い市民へ広く情報発信を行った。	今年度の実施報告書を作成しており、随時ホームページにて公開予定にしている。
⑤	九州がんプロの公式ホームページや、各大学で管理しているがんプロホームページ、SNS を含め全体で計 93 回の記事掲載・更新を実施。	様々ながんプロ活動を積極的に公開し広く情報発信を行った。
⑥	各大学で、のべ 56 回のシンポジウム、セミナー、講習会、市民公開講座を実施し、約 2,600 名の参加を得た。	学内外に対して情報提供、啓発活動を行った。
⑦	3 名のがんプロ履修生に対して、がん薬物療法専門医資格取得支援を実施し、各がん種専門医が症例実績報告書 85 症例分の査読および指導を行った。	支援を実施した 3 名全員が書類審査を合格するとともに、各大学において 16 名が各種専門医資格に合格した。
⑧	今年度は合計 2 回の事業運営推進協議会会議を実施し、事業運営について協議した。	WEB 会議、メール会議を活用し、多大学による運営を効率的に進めることができた。
⑨	各大学において、国内外医療機関と連携活動を行うとともに、北海道拠点・東北拠点と 3 拠点合同シンポジウムを開催予定。	他拠点との合同事業を毎年開催し、連携教育や交流活動を行っていく。
⑩	12 月に長崎市にて 2 日間にかけて九州がんプロ全体研修会を実施した。九州全 8 大学より 26 名が参加した。	がんプロ教員・履修生が参加し、後援や症例検討のグループワーク等を通して情報共有・交流を図った。
⑪	11 月に履修生による教育研究成果発表会を開催した。九州 10 大学より 60 名が参加し、7 名の学生が発表を行った。	他大学との情報共有をするとともに、がん医療への理解を深めた。
⑫	12 月～1 月に各大学において内部評価資料を作成した。	内部評価の結果をもとに、今後の事業改善に努める。
⑬	2 月に外部評価委員を招いて「外部評価会」を開催する。	外部評価委員からのフィードバックにより、各事業の自己点検・進捗管理を行い、来年度以降の事業に活かす。

## (2) 各事業の実績・成果（詳細）

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11 大学・計 36 コース（大学院 24 コース、インテンシブ 12 コース）において教育を実施。今年度合計 379 名の受入があり、37 名の修了者を輩出した。九州がんプロ全体として当初の受入目標を達成した。</li> <li>・今年度 10 月に開設した、「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」において、今年度は合計 66 名の新規受入があり、九州がんプロ全体としての当初の受入目標を達成した。</li> <li>・九州がんプロ履修生に対して、日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医症例実績報告書」の作成支援を実施しており、今年度は 3 名の履修生の計 85 症例分の報告書について、各がん種の専門家が査読および指導を実施した。3 名全員が書類審査に合格し、最終的に専門医試験に合格した。</li> <li>・各大学のがんプロ学生が、論文発表や、国内学会、国際学会での発表を行い多くの実績をあげている。（英文誌 53 件、和文誌 19 件、国内学会 131 件、国際学会 46 件、その他受賞等 11 件）</li> </ul>
②シンポジウム、セミナー、講習会等	<p>今年度は拠点内において合計 55 回のシンポジウム・セミナー等を開催し、約 2,600 名の参加が得られ、当初の目標を大きく上回るすることができた。各大学において他施設との連携・共同によるセミナーなども活発化しており、地域の医療従事者をはじめとした学外者も多く参加している。今後がんプロの輪を更に各地へ広げるべく積極的な開催を進める。</p>
③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS 等の実績含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学で管理するがんプロホームページと合わせて全体で 93 回の記事掲載・更新を行った。Facebook や X といった SNS でも更新を行い、積極的に発信するよう努めた。</li> <li>・各大学において市民公開講座を開催しており、がん医療についての最新情報を提供するとともに、がんプロ事業について市民へ広く情報発信を行った。</li> </ul>

④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・各大学において、地域のがん診療連携拠点病院、および小児がん拠点病院との連携により、カンファレンス、研修会・セミナー、市民公開講座を多数実施している。これらに、がんプロ教員・履修生をはじめ各医療機関の医師・医療スタッフが参加し、知識向上・意見交換を行っている。
- ・北海道拠点と東北拠点、九州拠点の三拠点連携シンポジウムを札幌医科大学にてハイブリッド形式で開催し、各拠点より教員や若手研究者が発表を行った。他施設における医療体制や研究について情報共有し、拠点間の連携を構築する事ができた。

⑤自己評価体制（拠点間リトリート含む）

九州がんプロにおいて「事業運営推進協議会」を組織し、その中で拠点における事業の評価指標を具体的に策定した。これをもとに今回の内部評価を実施しており、この結果を外部評価会において第三者評価を行うことで、客観的な視点も加えた事業の見直しを実施する。また、内部評価・外部評価の結果は公式ホームページにて広く社会に公開、発信する予定であり、これにより更に多くの関係者・市民等から意見をj得ることで、恒常的なPDCA サイクル（Plan、Do、Check、Action）の確立に努める。

また、来年度は北海道拠点、東北拠点、北陸拠点の4拠点合同事業を実施し、他拠点の活動を参考にして本拠点の活動を評価、改善する。

3. プラン採択時における「がんプロフェッショナル養成推進委員会」の評価への対応

(1) 推進委員会所見（令和5年6月20日発表）への対応状況

要望事項	所見の内容	本プランの対応方針
①	各診療科、職種横断的な取組を推進するため、学長又は学部長等をトップとした実行性の高い実施体制を構築すること。	代表校である九州大学の医学研究院長を事業責任者とし、各大学のコーディネーター教員で構成される事業運営推進協議会を設置する。原則として年2回協議会会議を開催し、連携大学間で教育・研究の情報共有を図り事業運営の意思統一、円滑な運営を構築する。
②	アウトカムとして、各種がん関連資格取得者数の具体的な目標値や養成した専門人材の地域定着・均てん化に向けた具体的な取組及び目標値を可能な範囲で明確にすること。	九州各県の大学で地域に合わせた独自の養成コースを設定し、福岡県171名、佐賀県6名、長崎県35名、熊本県24名、大分県35名、宮崎県18名、鹿児島県11名、沖縄県10名の受入を目標に専門人材の地域定着とがん医療の均てん化を図る。病理診断（病理専門医、分子病理専門医）、放射線治療（放射線治療専門医）、小児がん医療（日本血液学会専門医、小児血液がん学会専門医）、がん薬物療法（がん薬物療法専門医、がん治療認定医、がん専門薬剤師、がん指導薬剤師、がん薬物療法認定薬剤師）について専門的な知識を習得し、高度ながん医療を実践することが可能な医療人を育成する。
③	特に正規課程コース修了者の進路や活躍状況のフォローアップを可能な限り行い、地域定着状況等の事業成果の把握に努めること。	各大学にて修了者の進路、専門的な資格の取得状況を調査し、がん医療均てん化の為の地域定着状況等の事業成果の把握に務める。久留米大学では、久留米ネットワークセミナー（がん看護CNS課程履修生と修了生から構成される）を開催し、フォローアップに努める。
④	一般市民を対象とした公開講座やシンポジウムの開催、SNSの活用等により、本事業の成果を社会や地域に広く情報発信し、開発した人材養成モデル等を全国に普及させるための取組を積極的に行うこと。	各大学にて市民公開講座等を開催し、九州がんプロHPや公式アカウントにて情報発信するとともに、全国がんプロ協議会主催の市民参画イベントに積極的に参加し取組成果について報告する。九州がんプロHPは大幅な改定を行い公開の準備を進めており、情報の充実化を図るとともに、本事業の成果を市民の方へより分かりやすく発信していく。また、拠点間連携事業を計画し本拠点の人材養成モデルを発表する。産業医科大学のがんプロ修了生は全国各地で産業医として活動を行っており、そのネットワークを利用して両立支援コースで得られた成果を発信していく。
⑤	達成目標・評価指標の適切性や達成状況などを定期的に自己点検・評価するとともに、客観的に評価するため患者等を含む外部評価の仕組みを構築すること。	自己点検・評価のため毎年内部評価を実施し、外部有識者を評価委員とした「外部評価委員会」を設置し、継続的な第三者評価を実施することで、客観的評価を踏まえた事業改善を可能とし、PDCAサイクルを確実に回せる体制を構築する。また、令和5年度よりNPO法人バンキャンジャパン理事長の眞島喜幸氏に外部評価委員としてご就任いただいております。患者の視点からの評価を行っていただく。
⑥	長期的な展望に基づき、事業期間終了後も各大学において、必要な取組を自走化するための具体的な計画を検討すること。	本プランで養成された人材が次の世代のがん医療者の養成に携われるような素養を身につけさせることにより、がん医療者の教育基盤をつくる。九州がんプロ内に事業継続のための運営推進委員会を立ち上げ、外部資金獲得も含めた検討を行っていく。

推進委員会所見に対する今年度の対応状況	
①	代表校である九州大学の医学研究院長を事業責任者とし、各大学のコーディネーター教員で構成される事業運営推進協議会を設置している。今年度は2回の協議会を開催し、連携大学間で教育・研究の情報共有を図り、事業運営の意思統一、円滑な運営を構築し、多大学による運営を効率的に進めることができた。
②	病理診断、放射線治療、小児がん医療、がん薬物療法などについて専門的な知識を習得し、実践することが可能な医療人を養成するにあたり、九州各地に所在する各大学で目標を明確化し、充実した教育コースを構成した。
③	各大学にて修了者の専門的な資格取得状況を調査し、がん医療均てん化の為の地域定着状況等の事業成果の把握に努めた。特に正規課程コースについては修了時ばかりでなく、可能な限りその後も定期的にフォローを行う。
④	各大学において、様々なセミナーや市民公開講座を開催しており、多くの参加を得ている。九州がんプロ公式ホームページをはじめとして、各大学で管理しているがんプロホームページにおいても情報発信を行っており、今年度中に各実績報告書や本内部評価の結果等を公開する予定である。
⑤	自己点検・評価のため内部評価を実施している。さらに継続的な第三者評価を実施し、客観的評価を踏まえた事業改善を可能とし、PDCAサイクルを確実に回せる体制を構築するために外部有識者を評価委員とした「外部評価委員会」を設置している。令和5年度よりNPO法人パンキャンジャパン理事長に外部評価委員としてご就任いただいている。
⑥	本プランで養成された人材が、次の世代のがん医療者の養成に携わる動機づけとして、正規課程最終学年より人材養成について指導教官と協議を行っていく。

(2) 本プラン（九州がんプロ）に対する推進委員会からのコメントへの対応状況

	推進委員会のコメント（充実を要する点）	本プランの対応方針
①	福岡のような大都市から離島や少子高齢化を抱える地域まで様々な環境にある大学が連携しており、目的や方向性、不足する人材の異なる様々な大学が相乗りしているため、目的や方向性に沿った小グループを形成するなど、実効性の伴う運営体制の構築が求められる。	離島を多数有する地域にある長崎大学と琉球大学が連携し、離島におけるがん医療人材の育成を行いがん医療の偏在の解消を目指すとともに、九州がんプロ全体研修会等で成果発表報告を行い情報共有する事で事業運営の推進を行う。
②	養成されたがん専門医療人が福岡など大都市に集中せず適切に配置されるような具体的な取組を示すことが望ましい。	九州の各地域各大学において独自のプログラムを構成し、その地域の医療者を養成することで都市部に集中せず均てん化を図る。特に、沖縄では本島だけでなく八重山、宮古といった離島の医療人コースへのリクルートに務める。
③	テーマ①に関して、今までに行ってきた教育基盤をどのように発展的に見直すのか明確にすることが望ましい。	これまで15年間のがんプロ教育の中で行ってきたがん疼痛に関する講義や、がん学際領域に関する講義をより充実させる。また、放射線、病理については個別にコースを設定し、看護師や薬剤師といった多職種を対象としたインテンシブコースを設置する。 また、医学生の時からがんの診療やサババーブシップに関する講義を行い、がん診療に興味をもつ医師を増やすように努める。
④	医師以外の医療職の養成を目標としたコースも充実されることが望ましい。	全国eラーニングシステムを活用したインテンシブコースにおいて、多職種の養成を可能とする講義内容を充実させ、受講生確保の為広報活動に努める。
⑤	テーマ③に関するインテンシブコースの設定の有無が不明確であるため、明確にする。	九州がんプロが実施する「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」はテーマ①と記載しているが、テーマ③にも該当するコースである。
⑥	アウトカムとして各種がん関連資格取得者数の具体的な目標値を設定することが望ましい。福岡県では放射線科専門医数にシーリングがあるなどの状況を勘案した人数設定も望まれる。	各大学において、それぞれ明確な目標値を設定していき、それを指標に次年度以降のプログラムの改善を行っていく。 福岡県では放射線科専門医のシーリングは年間15名であり、放射線科医養成コースを設置している九州大学と久留米大学において年間3名前後で設定している。
⑦	患者市民参画（PPI）の観点から、外部評価委員会に患者もしくは市民の立場からの評価が行われるのかが明らかではない。	令和5年度より、NPO法人パンキャンジャパン理事長の眞島喜幸氏に外部評価委員としてご就任いただいております。
⑧	進捗状況の評価結果を次に活かし、発展的に計画を見直すことが望まれる。	自己点検・評価のため毎年内部評価を実施するとともに、外部評価委員による評価結果を基に次年度以降の事業改善を行っていく。 インテンシブコースでは、受講者の理解度を確認しながら講義内容の見直しを行う。

⑨	成果の普及に関しては一般的な記述のみであり、社会への情報発信をどのように行っていくのか前もって具体的に検討しておくことが望ましい。	各大学において市民公開講座を開催するとともに、拠点内合同でも実施する。中間年度と最終年度には実績報告書を作成し、関係各機関へ配布することで本事業の成果について情報発信を行う。がんプロ HP を大幅に改定し、令和5年度中に新たなHPにてイベント情報や活動報告等を発信していく。また、がんプロ広報室を新たに設置し、社会への情報発信について企画・検討を行い、がんプロ事業の成果について広く情報発信を行っていく。
⑩	事業継続についても具体的な記述が見受けられず、事業継続のための資金分担、外部資金獲得等を視野に入れておくことが望ましい。	本プランで養成された人材が、次の世代のがん医療者の教育基盤をつくる。九州がんプロ内に事業継続のための運営推進委員会を立ち上げ、外部資金獲得について検討を行っていく。

推進委員会からのコメントに対する、今年度の対応状況

①	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡県南の地域医療を担う大学として教育関連病院等の協力体制を図り、地域がん診療連携拠点病院として事業運営の推進を行う。</li> <li>離島を多数有する地域にある長崎大学と琉球大学が、離島におけるがん医療人材の育成を目的として、連携のための相互単位互換協定を締結している。</li> <li>12月に長崎市にて全体研修会を開催し、講演や症例検討等で情報共有する事で事業運営の推進を行った。</li> </ul>
②	産業医科大学では、北九州地域を中心に周辺の非都市部への医師派遣を行っている。九州の各地域においてその地域にとどまることが見込まれる医療者を増やすために、各大学で独自の養成プログラムを構成した。
③	これまでのがんプロ教育の中で行ってきたがん疼痛に関する講義や、がん学際領域に関する講義をより充実させたシラバスを構成した。また、放射線、病理については個別にコースを設定し、看護師や薬剤師といった多職種を対象としたインテンシブコースも開設した。
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度10月に多職種を対象とした「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」を開設した。がんプロオンライン教育プラットフォームを活用し、第4期のテーマに沿った内容を学習できるようシラバスを構成した。</li> <li>久留米大学、宮崎大学では、がん看護専門養成コースを設置し、がん看護専門看護師の養成に力を入れている。</li> </ul>
⑤	九州がんプロが実施する「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」をはじめとしたインテンシブコースでは、履修者のニーズに合わせて、テーマ①ばかりでなく、テーマ②・テーマ③についても学習できるようシラバスを構築している。
⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>コース履修終了後に、日本臨床腫瘍学会が認定する「がん薬物療法専門医」の資格取得者を毎年1名以上目指す。</li> <li>久留米大学では、本プラン期間中に放射線治療専門医師2名、がん看護専門看護師2名の養成を目指している。</li> <li>大分大学において、毎年3～5名程度の複数名の専門医を輩出したい。放射線治療医を目指す医師にインテンシブコースへの入学を促したうえで、放射線治療医資格の取得目標を2名とする。</li> </ul>
⑦	令和5年度より、NPO法人パンキャンジャパン理事長の眞島喜幸氏に外部評価委員としてご就任頂き、2月に開催予定の外部評価会にて評価を行って頂く事としている。
⑧	今回の内部評価を実施しており、九州全体での実績や目標達成に向けた進捗状況を確認し事業改善に努める。また、2月に外部評価を実施予定にしており、第三者からの評価を基に来年度の事業改善と向上に努める。
⑨	ホームページの充実を図り、地域の医療関係者やがん患者及びその家族に継続的に情報発信し、学内外においてがん教室や市民公開講座を通じて地域のがん教育及び啓発活動に努めている。
⑩	事業継続については、内部資金での継続を考えているが、補助金獲得などに向け情報収集を行う。

## 5. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b : 目標を達成できている

### 理由・分析等

- ・今年度開講している幾つかのコースにおいて、九州がんプロ全体としてはインテンシブコースでは目標を大きく上回る受入があったが、一部の大学院コースでは当初の目標を達成できていない点が課題となっている。
- ・各大学において、大小様々な規模のシンポジウム・セミナー等を開催し、がん専門医療人の育成に寄与した。
- ・各大学において、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院等の他施設との連携・共同も活発化している。また、一般市民を対象とした市民公開講座の開催により、がんに関する最新の情報を提供するとともに、がんプロ事業の周知を行った。
- ・北海道拠点と東北拠点との拠点間合同事業も計画通り実施し、拠点間の情報共有を行うとともに、連携体制の構築を行った。
- ・各大学のがんプロ活動情報を収集し、積極的にホームページやSNSで発信し、広く社会へ広報できた。

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・一部、学生の受入がなかった教育コースもあることから、単一大学内での検討に留まらず、九州がんプロ全体として改善策を検討し、引き続き積極的な学生受入を行う。地域差により学生確保に課題を持つ大学については、他大学からも積極的にアドバイスや協力を行う等して、拠点としての目標達成を目指す。
- ・がんプロ内だけでなく、各大学附属病院の機能を活かし、他診療科とも更に積極的に具体的な事業・教育を行う事で、連携体制の可視化を行う。また、がんプロ教員・履修生が各施設の事業・教育活動に積極的に関与することで、大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高めていく。

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	九州大学
コーディネーター	大学院医学研究院 連携腫瘍学分野 教授 馬場英司
事務担当者	医系学部等事務部 学務課 課長補佐 黒添俊英

## 1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度は正規課程大学院コースの7コースを4月に開設し、第4期がんプロのテーマを主題とするがん教育カリキュラムを作成、講義を行った。 「個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース」14名、「次世代の病理学コース」1名、「医用量子線データサイエンティストコース」19名、「がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程」1名、「がん創薬研究薬学コース博士課程」2名の合計37名の新規受入があった。</li> <li>・全国オンライン教育プラットフォームを利用したインテンシブコースを10月に開設し、本学において27名の新規受入があった。また、資料となる講義の録画、編集作業を行っており、全国eラーニングクラウドへのアップロードを進めている。</li> <li>・がんプロ履修生が複数のがん種を対象とした臓器横断的な臨床研修を行えるよう、診療科間のコーディネートを行った。また、がん薬物療法専門医資格取得に係る、症例実績報告書の添削支援を実施した。</li> <li>・九州がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」を九州大学の会場にてハイブリッド形式で開催した。10大学が参加し、そのうち7大学より学生各1名ずつが発表を行い、全体で60名の参加があった。</li> <li>・大分大学と合同で開催している「九州大学・大分大学合同カンファレンス」を大分県別府市にて開催した。両大学のがんプロ教員・履修生に加えて、福岡、大分両県のがん診療連携拠点病院等から計26名の医療関係者が参加した。</li> <li>・例年、「先端医用量子線技術科学コース講演会」を開催しており、臨床現場で物理学的かつ技術的な面で指導者としての役割を果たし、様々ながん治療を含む臨床研究を推進する先端医用量子線技術の医療人を養成している。今年度もZoomによる令和6年度第1回遠隔講習会を開催し、全国各地から多職種229名の参加があり、2月にも第2回の開催を予定している。</li> <li>・九州大学病院ARO次世代医療センターとの共催にて、「がんゲノム医療セミナー」を開催し、がんプロ履修生と教員に加え、九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種を含む、合計188名が参加した。今年度中にあと2回開催を予定している。</li> <li>・九州大学病院がんセンターとの共催にて、「九州大学病院がんセミナー」を2回開催し、九州大学病院やがん診療連携拠点病院からの多職種を含む、合計197名が参加した。今年度中にあと2回開催を予定しており、2月には市民公開講座を共催で開催を予定している。</li> <li>・九州大学病院小児緩和ケアチームと共催で、「小児緩和ケアチーム勉強会」を5回開催し、院内の医療スタッフに加え、がん診療連携拠点病院や地域医療機関の医師・医療スタッフを含む、合計231名が参加した。今年度中にあと1回開催を予定している。</li> <li>・2月14日～15日に、アサン韓国医療センターへの訪問研修を予定しており、本学より教員2名と学生1名が参加予定である。施設見学を行うとともに、消化器がんとAI医療をテーマにした合同セミナーを開催する。</li> <li>・3月に九州大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学、大分大学の5大学合同による「市民公開講座」を開催予定にしており、放射線治療、がん予防、乳癌の最新治療について講演を行う予定である。</li> </ul>



## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- 本プラン履修生を対象とし「教育研究成果発表会」、「九州大学・大分大学合同カンファレンス」、「がんセミナー」、「がんゲノム医療セミナー」を実施した。また、個別化医療を学ぶ履修生については、がんゲノムエキスパートパネルへの参加とそのレポート提出を求めた。これらによりがん医療現場の課題に対応し、新たな治療法開発にも必要な知識を習得し、実臨床における理解が深まった。
- インテンシブコースの履修生は、筑波大学が運用するオンライン教育プラットフォームを活用し、「個別化医療」、「緩和医療」、「がん関連学際領域」などの、第4期がんプロのテーマで求められている専門領域の知識や最新情報を習得できた。
- 本学がんプロ履修生1名に対して、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医資格取得に係る症例実績報告書の30症例分について、各癌種の専門医が査読および指導を実施し、合格することができた。
- がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」では、履修生7名が発表を行った。九州10大学より多職種の教員・学生が質疑応答に参加すると共に評価を行い、優秀演題3題に奨励賞を授与した。他大学の研究について情報共有をするとともに、がん医療への理解を深めた。
- 「九州大学・大分大学合同カンファレンス」では、多職種の履修生・教員が参加し、がん診療連携拠点病院からの医療者も含めた参加者間での症例検討や研究発表を通じてがん医療現場の課題とその対策についての理解を深めた。
- 「先端医用量子線技術科学コース講演会」を開催し、がんの診断・治療分野における放射線に関する講演を通じて、臨床現場で物理学的かつ技術的な面で様々ながん治療を含んだ臨床研究を推進するための、先端医用量子線技術科学への理解が深まった。
- 「がんゲノム医療セミナー」では、がんゲノムプロファイリング検査とコンパニオン診断についての講演を通して、がんゲノム医療についての理解を深めた。
- 「九州大学病院がんセミナー」では、「肺癌ゲノム医療の進歩と薬剤開発」や「がん相談支援センターについて」など各臓器癌の専門医による講演があり、がん診療について幅広い知識を習得することができた。
- 「小児緩和ケアチーム勉強会」では、「ダウン症候群の基礎と臨床」、「非腫瘍性疾患に対する造血細胞移植」などの院内セミナーを開催した。また、「病気のある子どもの「きょうだい」が見ている世界」として特別講演も開催し、小児緩和ケアについての理解を深めた。



【九州大学・大分大学合同カンファレンス】



【小児緩和ケアチーム勉強会 特別講演会】

## 2. 各事業の取り組み状況

### ① 教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・前述のとおり、本年度は「個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース」14名、「次世代の病理学コース」1名、「医用量子線データサイエンティストコース」19名、「がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程」1名、「がん創薬研究薬学コース博士課程」2名の**合計37名の新規受入**を行った。
- ・前述のとおり、本年度10月に開設した「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」では、**28名の新規受入**を行った。
- ・本学がんプロ履修生1名に対して、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医の資格取得に係る症例実績報告書30症例分について各がん種の専門医が査読および指導を実施し、書類審査を合格している。

#### 1. 個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース

がんの個別化医療実現のため、臨床情報・ゲノムデータ解析や、バイオマーカー・新規治療標的の探索についてなどの講義及び演習を行った。がんゲノムについての基礎・臨床医学的知識を十分に習得し、実臨床でもがんゲノムパネル検査に基づく診療を積極的に推進し、かつ研究や教育に貢献できる人材を育成するため、参加大学合同の講習会や講演会を行うとともに、参加大学全体で多職種に対する教育を可能とするよう努めた。

#### 2. 放射線治療学コース

今年度は、志願者がいなかったため受け入れがなかった。過去の大学院志願者数や入学ニーズ調査の結果から、本コースは当初より隔年1名の志願者を見込んでいるが、来年度以降も大学院進学を志望する放射線治療医に本コースを積極的に提案していく予定である。

さらに、放射線治療医を増やすための長期的な取り組みとして、学生や研修医に対し、放射線治療の重要性や魅力を発信していく。

#### 3. がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース

今年度は、志願者がいなかったため受け入れがなかった。「小児緩和ケアチーム勉強会」として院内セミナーや特別講演を年に6回開催しており、来年度も開催予定にしている。

#### 4. 次世代の病理学コース

本コースは本年度1名の受講者であったため、個別型授業を行った。インタラクティブでより実践的な講義を行うため、一部の講義においては具体的な症例を顕微鏡で供覧し、組織診断のポイント、鑑別そして分子病理学的特徴について最新の知見を含めて解説を行った。

#### 5. 医用量子線データサイエンティストコース

・本コースではデータ駆動型技術を用いて、画像診断、核医学、放射線治療の臨床現場で働くがんプロフェッショナルのデータサイエンティスト（医学物理士）の育成を目指している。その目的のため必要な理工学的知識を学習するために、基礎電磁波論、基礎量子力学、医学物理情報理論、保健医療とIT、量子線治療科学論などの教育を行った。医学物理情報理論ではハジェテペ大学（トルコ）のヤージ氏から放射線治療の情報技術について最先端の知見を学習した。また、量子線治療科学論では多くの放射線治療施設から放射線腫瘍医や医学物理士を招き臨床現場の最新知見を教授して頂いた。またマラヤ大学（マレーシア）のソー氏による医療データサイエンスに関する演習もオンラインで行った。

・新たに新生児放射線診療用ファントムを導入し、X線撮影やCT検査のためにがん放射線検査のトレーニング、照射条件の最適化の実習に活用した。また核医学検査用のファントムを導入し、PET検査におけるがん検出のための画質最適化についてトレーニングを実施した。

・本コースでは医学物理士になる大学院生も教育しているため、6名の大学院生が医学物理士の試験を受験し3名が合格した。

#### 6. がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程

細胞検査士が扱う細胞診検体の細胞免疫化学染色に関する予備実験として培養細胞の扱いや用手法による組織検体の細胞免疫化学染色法のトレーニングを実施した。

#### 7. がん創薬研究薬学コース博士課程

・抗がん剤の効果を増強する手法を生み出す等、個別化医療を目指した新たな医療技術の開発にコース生も参画した。  
・難治性の乳がん研究を通じて、時間薬理学的視点より深く調査、研究しがん患者の個人差における要因を個体内変動の個人差から見つけ出す等、標的に対する薬剤について、腫瘍学的・薬学的に評価できる薬学研究者・薬剤師を養成した。

・タンパク質の構造を原子レベルで解析できるクライオ電子顕微鏡の管理運営を通して、学内外の創薬研究を支援する博士人材を育成した。

・抗がん剤による末梢神経障害に対する予防薬の探索研究についての研究指導を行うとともに、学術論文の作成・添削指導、学会発表におけるプレゼン・質疑対応指導を行った。

## ② シンポジウム、セミナー、講習会等

- 九州大学病院 ARO 次世代医療センターと共催し、「がんゲノム医療セミナー」を開催した。九州大学病院やがん診療連携拠点病院等も含めて 188 名が参加した。がんゲノムプロファイリング検査とコンパニオン診断薬などに関する講義を行い、参加者と活発な質疑応答が行われた。また、今年度中に 2 回開催予定である。
- 九州大学病院がんセンターと共催し、「九州大学病院がんセミナー」を本年度 2 回開催した。九州大学病院やがん診療連携拠点病院から多職種の出席者があり合計 197 名が参加した。がん診療について幅広い知識を習得する為に、各臓器の専門医によるガイドラインや最新のエビデンスに基づいた講習を行った。また、今年度中に 2 回開催予定である。
- 「先端医用量子線技術科学コース講演会」を開催し、学内・外から多職種の 229 名が参加した。がんの診断・治療分野における放射線検出に関する講演を通して最新の知見について理解を深めた。また、2 月にも開催を予定している。
- 小児がん拠点病院事務局と共催し、「小児緩和ケアチーム勉強会」を本年度 5 回開催し、学内・外から合計 231 名が参加した。また、今年度中に 2 回開催予定である。

## ③ 地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- 本学に設置している「九州がんプロ事務局」にて、本学をはじめ拠点内大学の情報を収集し、積極的にホームページを更新した。（合計 27 回更新）また、ホームページと連携した SNS（Facebook, X）も併せて活用し合計 22 回の投稿発信を行った。
- 九州大学病院がんセンターと共催で市民公開講座を 2 月に開催を予定しており、骨・筋肉にできる「がん」についての肉腫の話、希少がんの取り組み、当院における診療科横断的診療の取り組みについて情報発信を行う。
- 北部エリアの 5 大学（九州大学、久留米大学、福岡大学、産業医科大学、大分大学）が連携し、「放射線治療」、「がん予防」、「乳癌の最新治療」をテーマにした市民公開講座を 3 月に開催を予定している。

## ④ 大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- 「九州大学・大分大学合同カンファレンス」では、両大学がんプロ履修生・教員に加え、大分県、福岡県等のがん診療拠点病院の医師・医療スタッフが参加し、主にがん腫瘍内科領域のがん医療、教育、研究について症例検討や研究発表を行った。
- 「九州大学病院がんセミナー」では、本学のがんプロ履修生・教員だけでなく、がん診療連携拠点病院や小児がん拠点病院からも多くの医師、医療スタッフが参加し、積極的な情報・意見の交換を行った。
- 小児がん拠点病院である当院において、「小児緩和ケアチーム勉強会・特別講演」を定期的に開催。がんプロ教員・履修生を含む病院内の医療スタッフに加え、がん診療連携拠点病院や地域医療機関の医師・医療スタッフが参加し、小児を対象とした緩和ケアの知識向上に寄与した。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

a : 十分に目標を達成できている

### 理由・分析等

- 本年度 7 つの教育コースにおいて、履修者の受入目標 28 名に対し受入実績 37 名と、目標を達成した。
- 九州がんプロインテンシブコースでは、九州全体の受入目標 40 名に対し、本学において目標の過半数となる 27 名の受入を行った。
- 各セミナーや市民公開講座、海外訪問研修など今年度中の実施予定を含め計画していた研修はすべて達成できた。
- 九州拠点内の大学とともに、合同研修会、大学間合同カンファレンスを開催し、がん専門医療人の養成に大きく寄与した。
- 九州がんプロ公式ホームページや Facebook, X といった SNS を活用し、開催予定のイベントや活動報告について積極的に更新を行い、地域や社会に対して情報発信を行った。

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- 履修生は当初の目標に既ね達しているが、7 つの教育コースにおいて受入目標の人数を達成できるよう、学内・大学病院内の各部署に働きかけて履修生の確保を図る。
- 都道府県がん拠点病院、小児がん拠点病院、がんゲノム医療中核拠点病院としての大学病院の活動を利用し、がんプロ教員・履修生が積極的に関与することで、大学院入学前の研修医や学部学生のがん医療への興味を高める。
- セミナーやシンポジウムも積極的に開催し他大学との連携も深めており、来年度は北信がんプロを含めた 4 拠点連携セミナーを実施する予定である。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	九州大学
-----	------

○ 英文誌

	学生所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Imajima I.</u> , Shirakawa T, Ohtsu Y, Uchihashi H, Otsuka T, Akashi K, Baba E, Mitsugi K. Nutritional Status Is Associated With Physical Improvement of Palliative Cancer Patients During Cancer Rehabilitation. Cancer Diagn Progn. 2024 Jul 3;4(4):503-509.
2	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Kodama T, <u>Imajima I.</u> , Shimokawa M, Otsuka T, Kawahira M, Nakazawa J, Hori T, Shibuki T, Arima S, Ido A, Miwa K, Okabe Y, Koga F, Ueda Y, Kubotsu Y, Shimokawa H, Takeshita S, Nishikawa K, Komori A, Otsu S, Hosokawa A, Sakai T, Sakai K, Oda H, Kawahira M, Arita S, Honda T, Taguchi H, Tsuneyoshi K, Kawaguchi Y, Fujita T, Sakae T, Shirakawa T, Mizuta T, Mitsugi K. A multicenter retrospective observational NAPOLEON2 study of nanoliposomal irinotecan with fluorouracil and folinic acid in patients with unresectable pancreatic cancer. Sci Rep. 2024 May 30;14(1):12422.
3	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Yamaguchi K, Ito M, Isobe T, Koreishi S, Taguchi R, Uehara K, Ueno S, <u>Imajima I.</u> , Kitazono I, Tsuchihashi K, Ohmura H, Yoshihiro T, Tanoue K, Nishiyori S, Iwama E, Maeda T, Akashi K, Baba E. Impact of Genomic Alterations on Efficacy of Trastuzumab Deruxtecán Against Human Epidermal Growth Factor Receptor-2-Positive Advanced Gastric Cancer. JCO Precis Oncol. 2024 May;8:e2300681.
4	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Wei X, Uchibori K, Kondo N, <u>Utsumi T.</u> , Takemoto A, Koike S, Takagi S, Yanagitani N, Nishio M, Katayama R. <i>MIG6</i> loss increased RET inhibitor tolerant persister cells in RET-rearranged non-small cell lung cancer. Cancer Lett. 2024 Nov 1;604:217220. doi: 10.1016/j.canlet.2024.217220.
5	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Katayama Y.</u> , Iwasaki T, Yamamoto T, et al., Loss of SMARCA4 induces sarcomatogenesis through epithelial-mesenchymal transition in ovarian carcinosarcoma, in press
6	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Thoracic Cancer誌に投稿中。 <u>Nakashima, Kazuki.</u> , Otsubo, Kohei, Tsuchiya-Kawano, Yuko, Mikumo, Hironori, Iwama, Eiji, Harada, Eiji, Okamoto, Isamu, Suitability of frozen pleural fluid pellets for next-generation sequencing-based driver gene testing in non-small cell lung cancer
7	放射線治療学コース	Hirose T, A, <u>Takaki M.</u> , Shibayama Y, Fukunaga J, I, Kato T, Yoshitake T, et al., Evaluation of PTV margin in CBCT-based online adaptive radiation therapy for gastric mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma, J Radiat Res, Vol. 65 Issue 4 Pages 507-511, 2024
8	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	Hatakeyama K, Kikushige Y, Ishihara D, <u>Yamamoto S.</u> , Kawano G, Tochigi T, Miyamoto T, Sakoda T, Christoforou A, Kunisaki Y, Fukata M, Kato K, Ito T, Handa H, Akashi K. 2.Thrombospondin-1 is an endogenous substrate of cereblon responsible for immunomodulatory drug-induced thromboembolism. Blood Adv 8(3), 785-796. 2024
9	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	<u>Yamamoto S.</u> , Sanefuji M, Suzuki M, Sonoda Y, Hamada N, Kato W, Ono H, Oba U, Nakashima K, Ochiai M, Kusuvara K, Koga Y, Ohga S.3.Pediatric leukemia and maternal occupational exposure to anticancer drugs: the Japan Environment and Children's Study. Blood 143(4). 311-319. 2024.
10	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	Goto H, Oba U, Ueda T, <u>Yamamoto S.</u> , Inoue M, <u>Shimo Y.</u> , Yokoyama S, Takase Y, Kato W, Suenobu S, Ihara K, Koga Y, Ohga S Early defibrotide therapy and risk factors for post-transplant veno-occlusive disease/sinusoidal obstruction syndrome in childhood, Pediatr Blood Cancer, vol 71, issue 12, e31331. 2024
11	先端医用量子線技術科学コース	<u>YiZhi Tong.</u> , Hidetaka Arimura, Tadamas Yoshitake, <u>Yunhao Cui.</u> <u>Takumi Kodama.</u> Yoshiyuki Shioyama, Ronnie Wirestam, Hidetake Yabuuchi, Automated prediction of consolidation tumor ratio for stage I non-small cell lung cancer from treatment planning CT images based on deep learning segmentation models, Applied Sciences 2024, 14(8), 3275 (Published on April 13, 2024)
12	先端医用量子線技術科学コース	<u>Takumi Kodama.</u> , Hidetaka Arimura, Tomoki Tokuda, Kentaro Tanaka, Hidetake Yabuuchi, Nadia Fareeda Muhammad Gowdh, Chong Kin Liam, Chee Shee Chai, Kwan Hoong Ng, Topological radiogenomics based on persistent lifetime images for identification of epidermal growth factor receptor mutation in patients with non-small cell lung tumors, Computers in Biology and Medicine 2024 (Accepted on Dec. 3, 2024)
13	先端医用量子線技術科学コース	<u>Keisuke Hamada.</u> Toshioh Fujibuchi, Hiroyuki Arakawa, Optimum delineation of skin structure for dose calculation with the linear Boltzmann transport equation algorithm in radiotherapy treatment planning, Radiological physics and technology 17 ( 4 ) 938 - 946 2024.9
14	先端医用量子線技術科学コース	<u>Quoc, SD.</u> Fujibuchi, T, Arakawa, H, Hamada, K, Photon and Neutron Dose Estimation Using Monte Carlo Simulation in TrueBeam's Room, JOURNAL OF MEDICAL PHYSICS 49 (3) 473 - 479 2024.7
15	先端医用量子線技術科学コース	<u>Soai Dang Quoc.</u> , Toshioh Fujibuchi, Hiroyuki Arakawa, Keisuke Hamada, Simulating the head of a TrueBeam linear particle accelerator and calculating the photon-neutron spectrum on the central axis of a 10-MV photon using particle and heavy-ion transport system code, Radiation protection dosimetry 200 ( 8 ) 779 - 790 2024.5
16	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kyoko Hizukuril.</u> , Toshioh Fujibuchi, Hiroyuki Arakawa, Directional vector visualization of scattered rays in mobile c-arm fluoroscopy, Radiological physics and technology 17 (1) 288 - 296 2024.3
17	先端医用量子線技術科学コース	<u>Mayu Sakai.</u> , Toshioh Fujibuchi, Hyojin Lee, Donghee Han, Imaging of scattered radiation sources in X-ray radiography using a semiconductor radiation visualization camera, Radiological physics and technology. 2024 (Published on 5 Dec)
18	先端医用量子線技術科学コース	<u>Hiroshi Hamasaki.</u> , Hidetaka Arimura, Yuza Yamasaki, Takayuki Yamamoto, Mitsuhiro Fukata, Tetsuya Matoba, Toyoyuki Kato, Kousei Ishigami Noninvasive machine-learning models for the detection of lesion-specific ischemia in patients with stable angina with intermediate stenosis severity on coronary CT angiography, Physical and Engineering Sciences in Medicine 2024 (Accepted on Dec. 5, 2024)

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

19	先端医用量子線技術科学コース	Toshioh Fujibuchi, <u>Misaki Nakashima</u> , Hiroyuki Arakawa, Hitoshi Miyazaki, Choirul Anam, Evaluation of radiation protection effectivity in a cardiac angiography room using visualized scattered radiation distribution. Journal of radiological protection : official journal of the Society for Radiological Protection 44 ( 3 ) 2024.9
20	がん創薬研究薬学コース	Yoshida Y, <u>Tanihara T</u> , Hamasaki K, Tsurusaki F, Fukuda T, Adachi S, Terada Y, Otsuki K, Nishikawa N, Fukuoka K, Tsukamoto R, Hamamura K, Oyama K, Tsuruta A, Mayanagi K, Koyanagi S, Ohdo S, Matsunaga N. 2025. Targeting macrophage circadian rhythms with microcurrent stimulation to activate cancer immunity through phagocytic defense. Theranostics. 15(2):340-361.
21	がん創薬研究薬学コース	Kawashiri T, Mori K, Ishida H, Ueda M, Yao K, Nagahama F, <u>Mine K</u> , Mori Y, Koura Y, Fujita S, Shimazoe T, Kobayashi D. Paclitaxel-induced peripheral neuropathy in male rats attenuated by calmagufodipir, a superoxide dismutase mimetic. J Pharmacol Sci. 2025 Jan;157(1):8-11.

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	先端医用量子線技術科学コース	有村秀孝、 <u>兒玉拓巳</u> 、がんの特徴を穴から見通す -トポロジー穴解析-, 日本放射線技術学会 画像通信 2024;47(1):12-16 2024年5月
2	先端医用量子線技術科学コース	<u>金 焯</u> 、 <u>兒玉 拓巳</u> 、有村 秀孝、応用編 10. Pythonを用いたがん治療レディオミクス研究, 日本放射線技術学会雑誌/80 巻 (2024) 5 号, 2024/05/20
3	先端医用量子線技術科学コース	有村秀孝、 <u>兒玉拓巳</u> 、 <u>二宮健太</u> 、 <u>金焯</u> 、 <u>崔雲昊</u> AIを用いたレディオミクスの現状と展望：画像特徴量の説明可能性, 臨床放射線, 2024年11月号(69巻 06号)
4	先端医用量子線技術科学コース	<u>田畑成章</u> 、 <u>伊地知哲也</u> 、 <u>板井宏孝</u> 、 <u>立石 賢</u> 、 <u>北 健斗</u> 、 <u>尾畑麻美</u> 、 <u>河原優菜</u> 、 <u>園田梨紗</u> 、 <u>加藤伸一</u> 、 <u>井上敬朗</u> 、 <u>井手口忠光</u> ：一対比較法における深層学習を用いた観察者不足改善手法の提案：放射線技術学会誌；80巻6号(通号644) 2024年6月
5	先端医用量子線技術科学コース	<u>矢野 祐二</u> 、 <u>藤淵 俊王</u> 、 <u>荒川 弘之</u> 、 <u>舎鉛および無鉛素材の放射線防護衣における透過X線スペクトルや鉛当量、均一度の評価</u> , 日本放射線技術学会雑誌 80 (9) 944 - 954 2024.9

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Takahiro Utsumi</u> , Ken Uchibori, Makoto Nishio, Isamu Okamoto, Ryohei Katayama. BMF deficiency leads to an increase of drug tolerant persister cells in ALK-positive lung cancer. (2024.9.7-10, The IASLC 2024 World Conference on Lung Cancer. San Diego, USA, e-poster session)
2	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Shohei Ueno</u> , Taichi Isobe, Ryosuke Taguchi, Kyoko Yamaguchi, Kenji Tsuchihashi, Koichi Akashi, Eishi Baba. The amplification of TPX2 is a potential biomarker of oxaliplatin-sensitivity of colorectal cancers (CRCs) with CIN phenotype. AACR 2024. San Diego, California USA, April 5-10, 2024
3	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	<u>Shohei Ueno</u> , Taichi Isobe, Ryosuke Taguchi, Kyoko Yamaguchi, Kenji Tsuchihashi, Koichi Akashi, Eishi Baba. High efficacy of oxaliplatin in colorectal cancers (CRCs) with TPX2 amplification: Analysis using the C-CAT database. The 8th JCA-AACR Special Joint Conference. Kyoto, Japan, June 28-30, 2024
4	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	<u>Yamamoto S</u> , Koga Y, Sanefuji M, Suzuki M, Sonoda Y, Hamada N, Oba U, Nakashima K, Ochiai M, Kusahara K, Ohga S, and The Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Childhood leukemia and parental occupational exposure: The Japan Environment and Children's Study. The 14th JSH International symposium 2024 in Hakodate 2024. 7.13-14.
5	先端医用量子線技術科学コース	<u>Naoya Fuchiwaki</u> , Hidetaka Arimura, Kentaro Tanaka, <u>Rintaro Furuta</u> , Development of a robust predictive model for time variant trajectories of tumor growth in lung cancer patients treated with TKI. International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) (Yokohama) 2024. 4.13
6	先端医用量子線技術科学コース	<u>Naoya Fukano</u> , Hidetaka Arimura, Yuko Shirakawa, <u>Takumi Kodama</u> , Tadamasu Yoshitake, Yoshiyuki Shioyama, Prediction of Progression in Patients with Early-Stage Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Surgery and Stereotactic Body Radiotherapy. International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) (Yokohama) 2024. 4.13
7	先端医用量子線技術科学コース	<u>Mayu Nakagaki</u> , Hidetaka Arimura, <u>Yu Jin</u> , Hidetake Yabuuchi, Imaging biopsy models for identification of triple-negative breast cancer at preoperative dynamic contrast-enhanced magnetic resonance images. International Conference on Radiological Physics and Technology (ICRPT) (Yokohama) 2024. 4.11
8	先端医用量子線技術科学コース	<u>Takumi Kodama</u> , Hidetaka Arimura, Wai Yee Chan, Tomoki Tokuda, Kentaro Tanaka, Nadia Fareeda Muhammad Gowdh, Chong Kin Liam, Chee Shee Chai and Kwan Hoong Ng, Persistent Topology-Based Radiogenomics of Epidermal Growth Factor Receptor Mutation for Non-Small Cell Lung Cancer Patients on CT Images, AAPM 66th Annual Meeting & Exhibition (Los Angeles, USA) 2024. 7.23
9	先端医用量子線技術科学コース	<u>Junya Eda</u> , Hidetaka Arimura, <u>Takumi Kodama</u> , Tadamasu Yoshitake, Taka-aki Hirose, Yagiz Yedekci, Prediction Model for Radiation Pneumonitis in Early-Stage Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Treated with Stereotactic Ablative Radiotherapy Using Topological Features from Planning CT Images, Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP) (Pinang, Malaysia) 2024.10
10	先端医用量子線技術科学コース	<u>Kazuki MITSUSHIMA</u> , Hidetaka ARIMURA, Yuko SHIRAKAWA, Tadamasu YOSHITAKE, Lung tumor growth trajectories utilizing mathematical models in stereotactic body radiation therapy, Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP) (Pinang, Malaysia) 2024.10
11	先端医用量子線技術科学コース	<u>Moriguchi H</u> , Nohtomi A, ONO K, Kurihara R, Development of an automated measurement system for photoneutrons in a clinical Linac using the CsI self-activation method, The 10th Japan Meeting on Medical Physics JKMP10 (Nagoya) 2024.09.20

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

12	先端医用量子線技術科学コース	Moriguchi A, Nohtomi A, Maeda H, Fukunaga J, Shioyama Y, Cloutier E, Beaulieu L, Archambault L, Use of wire-grid polarization camera and Monte Carlo simulation for Cherenkov emission imaging in dosimetry of high-energy X-rays, The 10th Japan Meeting on Medical Physics JKMP10 (Nagoya) 2024.09.20
13	先端医用量子線技術科学コース	Kondo M, Motomatsu A, Mikayama R, Kojima T, Funatsu R, Shirasaka T, Kato T, Recalculation of iodine density from dual-keV CT images in dual-energy CT, Asia-Oceania Congress on Medical Physics 2024 (Penang) 2024.11.12
14	先端医用量子線技術科学コース	Motomatsu A, Kondo M, Mikayama R, Kojima T, Funatsu R, Shirasaka T, Kato T, Recalculation of electron density using virtual monochromatic images in dual-energy CT, Asia-Oceania Congress on Medical Physics 2024 (Penang) 2024.11.12
15	先端医用量子線技術科学コース	Hyojin Lee, Toshioh Fujibuchi, Hiroyuki Arakawa, Donghee Han, Consideration of real-time visualization of scattered rays using a high-sensitivity CMOS camera, Asia-Oceania Congress on Medical Physics 2024 (Penang) 2024.11.12
16	先端医用量子線技術科学コース	Kyoko Hizukuri, Toshioh Fujibuchi, Hiroyuki Arakawa, Donghee Han, Development of simplified dose distribution calculation program for radiation protective plate placement using directional vectors, Asia-Oceania Congress on Medical Physics 2024 (Penang) 2024.11.12
17	先端医用量子線技術科学コース	Mayu Sakai, Toshioh Fujibuchi, Consideration of real-time imaging of scattered radiation sources in X-ray fluoroscopy using a semiconductor camera, Kyushu University Forum KYUDAI NOW, (Bandung) 2024.8.28
18	先端医用量子線技術科学コース	Koki Noguchi, Toshioh Fujibuchi, Creation of Radiation Protection Educational Material by Visualization of Scattered Rays during Tube Angiography Using AR Technology, The 13th Korea - Japan Joint Summer Workshop in Radiological Sciences and Technology, (Busan) 2024.9.3
19	先端医用量子線技術科学コース	Kyoko Hizukuri, Toshioh Fujibuchi, Simplified Dose Distribution Calculation Method for Placing Radiation Protective Plate Using Directional Vectors, The 13th Korea - Japan Joint Summer Workshop in Radiological Sciences and Technology, (Busan) 2024.9.3
20	先端医用量子線技術科学コース	Lee Hyojin, Mayu Sakai, Toshioh Fujibuchi, Real-time Scatter Imaging Using a High-sensitivity CMOS Camera, The 13th Korea - Japan Joint Summer Workshop in Radiological Sciences and Technology, (Busan) 2024.9.3
21	先端医用量子線技術科学コース	Risako Aso, Taka-aki Hirose, Jun-ichi Fukunaga, Masanori Takaki, Tadamasu Yoshitake, Kazushige Atsumi Evaluation of an IMRT planning with a CBCT-based adaptive radiotherapy system for prostate cancer, Asia-Oceania Congress of Medical Physics (AOCMP) (Pinang, Malaysia) 2024.10

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Takahiro Utsumi, Ken Uchibori, Makoto Nishio, Isamu Okamoto, Ryohei Katayama. ALK inhibitor resistance through Gas6/AXL pathway in ALK-positive lung cancer. (2024.9.19-21, 第83回日本癌学会学術総会, 福岡, 口演+ポスター)
2	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	内海 太裕, 内堀 健, 西尾 誠人, 岡本 勇, 片山 量平. ALK陽性肺癌におけるAXL/GAS6を介したALK阻害薬耐性機構. (2024.6.19-21, 第28回日本がん分子標的治療学会学術集会, 東京, 口演)
3	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	水嶋俊, 非小細胞肺癌においてNECTIN4はCD155の発現を介して腫瘍免疫を制御する. 第28回日本がん分子標的治療学会学術集会 (東京有明) 2024年6月
4	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	水嶋俊, NECTIN4 is Involved in Resistance to PD-1 Inhibitor by Regulating CD155 Cell Surface Expression, 第83回日本癌学会学術総会 (福岡) 2024年10月
5	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	中島和輝, 田村健太郎, 三雲大功, 土屋裕子, 原田英治, 局所的な気管支内進展を認めた胸腺腫の1例, 第47回日本呼吸器内視鏡学会学術集会 (大阪) 2024年6月28日
6	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	中島 和輝, 大坪 孝平, 土屋 裕子, 柴原 大典, 白石 祥理, 米嶋 康臣, 岩間 映二, 原田 英治, 岡本 勇, 非小細胞肺癌の胸水凍結ペレットを用いたオンコマインDxTTIによるドライバー遺伝子検査の有用性に関する検討 第65回日本肺癌学会九州支部学術集会 (福岡) 2025年2月9日
7	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	中島 和輝, 大坪 孝平, 土屋 裕子, 柴原 大典, 白石 祥理, 米嶋 康臣, 岩間 映二, 原田 英治, 岡本 勇, 非小細胞肺癌の胸水凍結ペレットを用いたオンコマインDxTTIによるドライバー遺伝子検査の有用性に関する検討第22回日本臨床腫瘍学会学術集会 (神戸) 2025年3月6日-8日
8	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	渋谷祥平, 乳癌新規ドライバー遺伝子B4GALT3の腫瘍生物学的意義の検討, 第124回日本外科学会定期学術集会 (愛知) 2024年4月19日
9	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	渋谷祥平, 乳がんにおけるERβ発現の腫瘍生物学的意義と治療ターゲットとしての可能性, 第28回日本がん分子標的治療学会 (東京) 2024年6月28日
10	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	渋谷祥平, 乳癌新規ドライバー遺伝子B4GALT3の腫瘍生物学的意義の検討, 第32回日本乳癌学会学術総会 (仙台) 2024年7月13日
11	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	渋谷祥平, 乳癌新規ドライバー遺伝子B4GALT3の腫瘍生物学的意義の検討, 第83回日本癌学会学術集会 (福岡) 2024年9月20日

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

12	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Shohei Ueno, Colorectal cancers (CRCs) with TPX2 amplification is highly sensitive to oxaliplatin. 第82回日本癌学会学術総会(福岡) 2023年9月19日-21日
13	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	Shohei Ueno, Efficacy of Oxaliplatin in metastatic colorectal cancer with the amplification of Chr20q11.21. 第22回日本臨床腫瘍学会学術集会(神戸) 2025年3月6日-8日
14	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	池田俊司、久松雄一、吉田百合絵、大森幸恵、久保 真、吉住朋晴、ステロイド治療が奏効した肉芽腫性乳腺炎の3例、第22回日本乳癌学会九州地方会、2024年9月28日 九州大学医学部百年講堂
15	放射線治療学コース	高木正統、限局期胃MALTリンパ腫に対するCBCTを用いた即時適応放射線治療の有用性の検討、日本放射線腫瘍学会第37回学術大会(横浜) 11月22日
16	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	Yamamoto S, Sanefuji M, Suzuki M, Sonoda Y, Hamada N, Kato W, Ono H, Oba U, Nakashima K, Ochiai M, Kusuvara K, Koga Y, Ohga S. Pediatric leukemia and maternal occupational exposure to anticancer drugs: the Japan Environment and Children's Study. 第77回九州小児科学会(熊本) 2024年11月
17	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	Yamamoto S, Sanefuji M, Suzuki M, Sonoda Y, Hamada N, Oba U, Nakashima K, Ochiai M, Kusuvara K, Koga Y, Ohga S, and The Japan Environment and Children's Study (JECS) Group. Occupational exposure of parents and non-infant leukemia in their offspring in Japan. 第86回日本血液学会学術集会(京都) 2024年10月
18	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	Oba U, Goto H, Yamamoto S, Ueda T, Inoue M, Shimo Y, Koga Y, Ohga S. 2.Early defibrotide administration and risk factors for pediatric VOD/SOS posttransplant. 第86回日本血液学会学術集会(京都) 2024年10月
19	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	山本俊亮、實藤雅文、落合正行、鈴木麻也、園田有里、濱田律雄、大場詩子、中島健太郎、楠原浩一、古賀友紀、大賀正一、母体の職業性医療用物質曝露が新生児からの造血器腫瘍性疾患の発症に及ぼす可能性。第34回日本産婦人科・新生児血液学会(愛媛) 2024年6月
20	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	古賀友紀、山本俊亮、大場詩子、中島健太郎、實藤雅文、落合正行、楠原浩一、大賀正一。エコチル調査でわかったこと、福岡ユニットセンターからの報告～両親の医療用物質曝露と小児がん。第127回日本小児科学会学術集会(福岡) 2024年4月
21	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	山本俊亮、實藤雅文、鈴木麻也、園田有里、濱田律雄、加藤稚子、小野宏彰、大場詩子、中島健太郎、落合正行、楠原浩一、古賀友紀、大賀正一、子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)。6. 両親の医療用物質に対する職業性曝露と3歳までの小児がん発症の潜在性リスク：子どもの健康と環境に関する全国調査 第127回日本小児科学会学術集会(福岡) 2024年4月
22	先端医用量子線技術科学コース	江田 惇哉、有村 秀孝、兒玉 拓巳、吉武 忠正、廣瀬 貴章、Yagiz Yedekci, 早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療における治療計画CT画像を用いた放射線肺炎予測, 第43回日本医用画像工学会大会(東京) 2024年8月
23	先端医用量子線技術科学コース	光島 千穂、有村秀孝、白川友子、吉武忠正、体幹部定位放射線治療を受けた早期非小細胞肺癌患者における腫瘍成長モデルの開発, 第43回日本医用画像工学会大会(東京), 2024年8月
24	先端医用量子線技術科学コース	兒玉拓巳、有村秀孝、徳田智紀、田中健太郎、Nadia Fareeda Muhammad Gowdh, Chong-Kin Liam, Chee-Shee Chai, Kwan Hoong Ng パーシステントホモロジーを用いた非小細胞肺癌患者の上皮成長因子受容体変異予測, 医用画像情報学会 第200回記念大会(大阪) 2024年10月
25	先端医用量子線技術科学コース	崔雲昊、有村秀孝、吉武忠正、倭彦志、兒玉拓巳、塩山善之、Ronnie Wirestam、藪内英剛、深層学習に基づく放射線治療を受けた肺がん患者の治療計画CT画像におけるConsolidation/Tumor 比の自動予測, 医用画像情報学会 第200回記念大会(大阪) 2024年10月
26	先端医用量子線技術科学コース	前田英哉、納富昭弘、守口碧仁、呼 尚徳、秋田和彦、小野公二、ホウ素添加液体シンチレータとデジタルカメラを用いた光学的なホウ素線量分布測定への細管状ガラス容器の適用可能性、第20回日本中性子捕捉療法学会学術大会(大阪・高槻)2024年7月27日
27	先端医用量子線技術科学コース	蓮地夏実、納富昭弘、前田英哉、守口碧仁、呼 尚徳、秋田和彦、小野公二、異なる種類の液体シンチレータを用いた臨床BNCT場でのホウ素線量分布の光学的観測、第36回放射線夏の学校・次世代放射線シンポジウム2024(福岡・志賀島)2024年8月17日
28	先端医用量子線技術科学コース	田畑 成章、伊地知 哲也、板井 宏孝、北 健斗、加藤 伸、井上 敏朗、井手口 忠光：一対比較法における深層学習を用いた観察者不足改善手法の提案 -ファントム形状による影響-, 第80回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜), 2024. 04. 11-14
29	先端医用量子線技術科学コース	北 健斗、田中 延和、田畑 成章、大藤 孝文、猪本 奈美、加藤 豊幸、井手口 忠光：ノイズ抑制処理による胸部targetEI低減の可能性：新しい画質評価法SSIMと視覚評価を用いた検討、第80回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜), 2024. 04. 11-14
30	先端医用量子線技術科学コース	大椋 愁斗、高村 純平、田畑 成章、井手口 忠光：医用液晶ディスプレイにおける10bitおよび8bit表示の信号検出能比較, 医用画像情報学会令和6年度(第200回)大会@大阪, 2024. 10. 5
31	先端医用量子線技術科学コース	北島 和孝、田畑 成章、井手口 忠光：デジタルX線画像における円形エッジデバイスを用いた画像鮮鋭度評価法の提案, 医用画像情報学会令和6年度(第200回)大会@大阪, 2024. 10. 5
32	先端医用量子線技術科学コース	近藤雅敏、林真優、本松昱、葛貫千絵、船津亮平、白坂崇、加藤豊幸, Dual-energy CTの仮想単色X線画像による実効原子番号の逆推定, 第80回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜) 2024年4月11日
33	先端医用量子線技術科学コース	本松昱、近藤雅敏、葛貫千絵、林真優、船津亮平、白坂崇、加藤豊幸, 線質効果現象がDual-energy CTの仮想単色X線画像による電子密度の逆推定に与える影響, 第80回日本放射線技術学会総会学術大会(横浜) 2024年4月11日
34	先端医用量子線技術科学コース	野口昂生、藤淵俊王、荒川弘之、AR技術を利用した血管造影時の散乱線の可視化による放射線防護教材の作成, 第80回 日本放射線技術学会総会学術大会(横浜) 2024年4月11日
35	先端医用量子線技術科学コース	境真由、Lee Hyojin、藤淵俊王、荒川弘之、半導体カメラによるX線透視での散乱線源のリアルタイムイメージングの検討, 第80回 日本放射線技術学会総会学術大会(横浜) 2024年4月11日
36	先端医用量子線技術科学コース	檜作響子、藤淵俊王、荒川弘之、方向ベクトルを利用した放射線防護板配置時の簡易線量分布計算法の検討, 第80回 日本放射線技術学会総会学術大会(横浜) 2024年4月11日
37	先端医用量子線技術科学コース	田淵麻央、檜作響子、藤淵俊王、Ray tracingを利用したX線透視室内の散乱線分布可視化システムの開発と精度検証, 第1回 日本放射線医療技術学術大会(那覇) 2024年11月1日



「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

38	先端医用量子線技術科学コース	境 真由, Lee Hvojin, 藤淵俊王, 荒川 弘之, Han Donghee, 可搬型半導体式放射線可視化カメラによるX線透視での散乱線源のイメージングの検討, 第1回 日本放射線医療技術学会大会（那覇）2024年11月1日
39	先端医用量子線技術科学コース	擅作響子, 藤淵俊王, 荒川 弘之, Han Donghee, Virtual reality技術を利用したX線透視時の散乱線の方向ベクトルの可視化, 第1回 日本放射線医療技術学会大会（那覇）2024年11月1日
40	先端医用量子線技術科学コース	野口昂生, 藤淵俊王, AR技術を利用したモバイルCアーム透視装置およびCT装置の散乱線可視化による放射線防護アプリケーションの作成, 第1回 日本放射線医療技術学会大会（那覇）2024年11月1日
41	先端医用量子線技術科学コース	Lee Hvojin, 藤淵俊王, Han Donghee, 高感度CMOSカメラを用いたX線CT検査時の散乱線源の可視化による放射線防護対策の検討, 第1回 日本放射線医療技術学会大会（那覇）2024年11月1日
42	先端医用量子線技術科学コース	宮崎仁志, 藤淵俊王, 脳血管撮影における3DDSAとCBCTによる臓器線量と実効線量の推定, 第1回 日本放射線医療技術学会大会（那覇）2024年11月1日
43	先端医用量子線技術科学コース	宮崎仁志, 藤淵俊王, 回転撮影の臓器・実効線量推定における時間短縮を目的としたシミュレーションパラメータの最適化, 第40回日本脳神経血管内治療学会学術集会（熊本）2024年11月21日
44	先端医用量子線技術科学コース	Lee Hvojin, 藤淵俊王, 高感度CMOS カメラとデブスカメラを用いた散乱線源の3次元イメージングに関する検討, 第19回 九州放射線医療技術学会大会（宮崎）2024年11月1日
45	先端医用量子線技術科学コース	田淵 麻央, 藤淵俊王, 診療用X線管におけるターゲット内の相互作用を再現した散乱線分布のモンテカルロシミュレーションの検討, 第19回 九州放射線医療技術学会大会（宮崎）2024年12月21日
46	先端医用量子線技術科学コース	擅作響子, 藤淵俊王, 荒川弘之, X線透視における散乱線の方向ベクトル分布の可視化, 第198回 医用画像情報学会（福岡）2024年2月3日
47	がん創薬研究薬学コース	谷原智仁: 微弱電流刺激のp53変異型乳がんに対する細胞死誘導機構と5-FU耐性改善機構の解析, 第18回次世代を担う若手のための医療薬学シンポジウム（石川）, 2024年10月3日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	内海太裕: 日本肺癌学会 2024年度世界肺癌会議トラベルグラント
2	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	内海太裕: 2024年第83回日本癌学会学術総会 JCA若手研究者ポスター賞
3	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	山本俊亮: 第77回 九州小児科学会 優秀論文賞 2024年11月17日
4	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	Yamamoto S: The 14th JSH international symposium 2024 in Hakodate Best Poster Award 2024. 7. 13-14.
5	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	山本俊亮: 令和6年度 日本産婦人科・新生児血液学会学術集会 真木賞 2024年6月7日
6	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	山本俊亮: 2024年度 日本血液学会研究助成 30万円獲得
7	先端医用量子線技術科学コース	田畑成章: 公益社団法人 日本放射線技術学会九州支部 学術支援事業「2023年度九州支部 Research Award」受賞: 2024. 5. 17
8	先端医用量子線技術科学コース	田畑成章, 伊地知哲也, 板井宏孝, 立石 賢, 北 健斗, 尾畑麻美, 河原優菜, 園田梨紗, 加藤伸一, 井上敬朗, 井手口忠光: 一対比較法における深層学習を用いた観察者不足改善手法の提案: 放射線技術学会誌 (80巻6号): 2024年度 研究奨励賞・技術奨励賞医療情報分野: 2024. 11
9	先端医用量子線技術科学コース	Hvojin Lee, Consideration of real-time visualization of scattered rays using a high-sensitivity CMOS camera, Asia-Oceania Congress on Medical Physics 2024 (Penang) Poster Award 2024. 10. 12
10	先端医用量子線技術科学コース	Mayu Sakai, Toshioh Fujibuchi, Consideration of imaging of scattered radiation sources in X-ray fluoroscopy using a semiconductor camera, Kyushu University Asia week, (Fukuoka) Asia Oceania award, 2024. 11. 7



## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	福岡大学
コーディネーター	高松 泰
事務担当者	岸川美幸

## 1. 概要

## テーマ ※前期から継続した目標（編集不可）

- テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
- テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。
- テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

## 各テーマに対する今年度の実績

- ・がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成に取り組んでいるが、今年度の実績はなかった。
- ・医師に関しては、今年度がん薬物療法、血液専門医などがん治療に関連した専門医資格を取得した者はいなかった。内科専攻医の中で臨床腫瘍学や血液内科学に興味を持つものが徐々に増えており、内科専門医取得後のがん医療の専門医資格の取得を目指す。
- ・看護領域において、がん化学療法看護、緩和ケア、がん放射線療法看護などがん関連の認定看護資格の新規取得者が増えていない。がんプロの看護師コースは設けていないが、看護部長と相談して資格取得希望者を支援する体制を整えること、インテンシブコースや病院内のカンファレンス等を通じてがん薬物療法や放射線療法、緩和ケアについて学習する場を設け、資格取得に興味をもつ看護師を増加やすことを試みている。現在1名が緩和ケアの認定看護師を目指して研修中である。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- ・インテンシブコースは今年度、下記のコンテンツをアップロードした。
  - ①放射線治療について
  - ②がんゲノム医療
  - ③がんリハビリテーション
  - ④周術期のリハビリテーション

## 2. 各事業の取り組み状況

## ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・大学院コースは入学者がいなかった。来年度以降の入学者獲得を目指す。
- ・インテンシブコースは昨年度に引き続きオンデマンド配信を実施し、院内医療従事者のがん診療の知識向上に努めた。（インテンシブコースの受入実績参照）

## ②シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・今年度も、患者、家族および一般市民を対象に『骨髄腫福岡セミナー～患者・家族・医療者のつどい』を開催した（2024年10月27日）。参加者数55名。
- ・今後、AYAサポートチーム研修会『AYA世代患者をチームで支える～関わりに工夫が必要なケースを通して考える～』を開催予定である（2025年1月21日）。



## ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・ホームページ更新が停滞しているので、今後情報発信を増やしていきたい。

## ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・がん診療連携拠点病院の九州がんセンター、福岡赤十字病院と合同でLymphoma Web Meeting in South Fukuokaを開催した（2024年11月13日）。高齢者の悪性リンパ腫に対する治療をテーマとして、それぞれ若手医師が症例経験を発表し議論を行った。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる。

### 理由・分析等

- ・今年度は大学院コースの入学者、専門資格取得者はいなかった。

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・がん診療に興味をもつ医療者を増やすことを目指して病院全体でインテンシブコースの動画配信を行い、院内勉強会を計画・開催している。現在緩和ケアの認定看護資格の研修を受けている看護師がおり、がん薬物療法の専門医を目指す内科専攻医も現れているため、来年度はさらに発展するよう活動を継続する。

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	久留米大学
コーディネーター	医学部外科学講座 教授 唐 宇飛 ・ 医学部看護学科 教授 桐明 あゆみ
事務担当者	医学部事務部教務課 課長補佐 堀内京子

## 1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

## 各テーマに対する今年度の実績

○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

令和6年度は大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」に1名が入学し、在籍者としては1名となっている。令和6年度においては、学生は本学で定められた専攻・コースのカリキュラムに基づき履修を行い、また、国内学会、国際学会への参加及び発表（予定を含む）を行った。今後、修了までの4年間、計画的に本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医を育成していく予定である。（担当：久留米大学放射線腫瘍センター 淡河教授）

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護CNS養成」には、令和6年度は3名の在籍者がおり、うち1名は前期で修了した。本課程の履修科目には、がん看護において卓越した実践ができる専門看護師を養成するため、がん看護実習Ⅰ～Ⅴ（5科目10単位）が含まれている。今年度1名は、がん看護実習Ⅲ「がん看護専門看護師に求められる高度な専門的知識および的確な臨床判断、熟達した高度な技術、倫理的態度を身につけ、様々な苦痛・苦悩を持つがん患者およびその家族に対して質の高い看護ケアを提供する実践能力を養う」ことを目的とした実習を久留米大学病院で修了できた。もう1名はがん看護学実習Ⅴとして「がん看護学実習Ⅰ～Ⅳを発展させ、がん看護専門看護師の役割をアセスメントし、役割機能を計画的に発揮する能力を養う」ことを目的とした実習を国立がん研究センター中央病院で修了できた。また、この2名は、がん看護学特別研究を履修の上修士論文を提出予定で、現在、執筆中である。この2名は令和7年3月に修了要件の単位をすべて取得し修了する予定である。さらに、令和7年度は1名の入学者の予定がある。

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」においては、本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医育成を強化するため、令和6年度より新規科目を2科目増やし、学生には計画的に履修を行うこと、また、積極的に学会への参加や発表を促した。（担当：久留米大学放射線腫瘍センター 淡河教授）

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護CNS養成」ではがんの様々な治療の時期に応じ、患者を中心に据えた看護の実践を行うことを重要視している。そのため、講義科目では、最前線のがん診断治療学を医学部講師から学び、がん看護専門看護師からは、事例を多く取り入れた実践的な講義内容にしている。また、シミュレーション教育を取り入れ、学生のがん看護実践力の向上を目指している。さらに、実習フィールドは学生の希望や専門性に応じ、多くの特徴ある実習フィールドを確保している。今年度は実習と研究の指導が主となった。

実習においては、目標の達成に向けて、オンラインや対面による指導をきめ細やかに行った。記録についても実践を可視化し、理論やモデルを活用してその意味を明確化できるよう実習終了後も多くの時間を使って指導している。その成果としては、実習学生のがん看護実践に対し、実習指導者、並びに実習先のスタッフから高い評価を得た。また、研究においては、がん看護に関するテーマで、2名が研究計画に対する倫理審査を受け、目標症例数のデータ採取、分析まで終え、今年度中に修士論文を作成予定である。

なお、インテンシブコースについては、今年度履修者がいない。

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

大学院医学研究科博士課程個別最適医療系専攻先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」においては、学生1名が、国際学会1件（令和6年10月にアイルランド（ダブリン）で行われた「国際婦人科腫瘍学会：IGCS in 2024 (dublin Ireland) 2024.10.16-18）」および国内学会3件（令和6年2月 第198回 日本医学放射線学会九州地方会（熊本）、令和6年6月 第199回 日本医学放射線学会九州地方会（長崎）、令和6年11月 第37回 日本放射線腫瘍学会（横浜））に参加し、発表を行った。また、国内学会1件（令和7年1月 第35回 日本骨軟部放射線研究会（福岡））に参加、発表予定である。（資料②参照）

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護CNS養成」は前期に修了した学生が1名、令和6年度の九州がんプロ教育研究発表会で修士論文の一部を発表した。なお、この学生は、第39回日本がん看護学会学術集会で「高齢がん患者が治療を選択する時のがん看護専門看護師の支援の実際」をテーマとして学会発表の予定である。また、昨年度の修了生も修士論文を整理し、第39回日本がん看護学会学術集会で「終末期肺がん患者の療養場所をめぐる患者と家族の揺れに対する訪問看護師の認識と関わり」をテーマとして学会発表の予定である。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

学内外において様々ながん関連セミナーやがん教室を行われていたが、特にがんの放射線治療法に関する講演の実施（令和6年11月実施）により、県南地域における放射線治療専門医の人材養成に寄与することが期待される。

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

九州がんプロ関連のセミナーや講演会等の案内については、本学ホームページや大学院生専用ポータルサイト等に掲載をし、広く周知を行っている。

また、関連の久留米大学病院腫瘍センターや先端癌研究センター等と連携し、ホームページにより、「地域連携・セミナー」について、当地域の医療関係者やがん患者及びその家族に継続的に情報発信し、学内外においてがん教室や市民公開講座を通じて地域のがん教育及び啓発活動に努めている。

### ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

本学の附属病院として久留米大学病院はがん診療拠点病院であり、定期的に本学の教育関連病院との間において、治療抵抗性や難治性がんの治療に当たり、Web会議などでゲノム解析やエキスパートパネル及びキャンサーボードの開催を行っている。その結果を薬物開発などの臨床試験へ情報提供し、試験参加を促すことを行っている。院内においては新規免疫チェックポイント阻害薬による薬物療法に対しても総合的に管理する専門委員会が設立され、がん関連診療科同士での意見情報交換を行っており、有害事象の対応などに有効な役割を果たしている。また、遺伝背景の強いがん患者に対して、連携病院と相互的に連携し、患者及びその家族も含め、カウンセリングによりリスク評価を行っており、地域でのハイリスク患者の拾い上げやそれに合わせたスクリーニング検査も行っており、癌の早期発見や治療および予防に貢献している。また、がん放射線治療の専門委員会やカンファレンスのほか、各種の臨床試験なども行われており、がん放射線専門医の育成環境はすでに備えている。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b: 目標を達成できている

### 理由・分析等

本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医育成を強化するため、令和6年度より新規科目を2科目増やした。1名が入学し、在籍者としては1名となっている。修了までの4年間、計画的に本養成プランの育成プログラムに基づく放射線治療専門医を育成していく予定である。（担当：久留米大学放射線腫瘍センター 淡河教授）

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

大学院進学者において当プログラムに対する周知や理解が不足しているため、大学に在籍しても、積極的に参加する人数が少ないのが現状であり、今後、がん診療に携わる若手医師大学院生に当教育プログラムの意義を再認識させ、より魅力のある内容にしていくことを工夫模索する必要があると考える。一方、限られた人員と時間のなかで指導者に対しても当プログラムへの理解を深め、積極的に関与するように促す必要がある。

大学院医学研究科修士課程専門職養成コース「がん看護CNS養成」では、がん看護CNSの役割の1つでもある研究を進め、修士論文を学会発表へ繋げることはできたが、論文投稿に至っていない。今後の課題とする。また、他職種連携について、がん看護援助論などの科目でも意図的に講義内容に組み入れ、次年度入学生と検討するなどして、がん緩和ケア地域連携論といったインテンシブコース受講の準備を進める。

また、本養成プランを円滑に運用するため、久留米大学大学院医学研究科と久留米大学病院の間において、がん診療や教育において総合的に関連の部署の設立についても模索しており、今後がんプロの教育プログラムにおいてより適切なシステムは確立できると期待される。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	久留米大学
-----	-------

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	放射線療法専門医養成コース	Yusaku Miyata, Etsuyo Ogo, Hideki Hirata, Naotake Tsuda, Kimio Ushijima, Hitoshi Obara, Tatsuyuki Kakuma, Chiyoko Tsuji, <u>Gaku Shioyama</u> , Ryosuke Akeda, Koichiro Muraki, Chikayuki Hattori, Shuichi Tanoue : dynamics in the expression of programmed death ligand 1 and cluster of differentiation 163 in the tumor microenvironment of uterine cervical cancer, IGCS in 2024 (dublin Ireland) 2024.10.16-18

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	放射線療法専門医養成コース	塩山 岳,完全中隔子宮に発生した子宮頸癌に対する根治的放射線療, 第198回 日本医学放射線学会九州地方会(熊本)2024年2月17日
2	放射線療法専門医養成コース	塩山 岳, 気管支拡張と著明な囊胞形成を示したAIDS合併ニューモシス肺炎の一例, 第199回 日本医学放射線学会九州地方会(長崎)2024年6月22日
3	放射線療法専門医養成コース	塩山 岳, ACTスポンサードセミナー 私が放射線治療医になったわけ, 第37回 日本放射線腫瘍学会(横浜)2024年11月23日
4	放射線療法専門医養成コース	塩山 岳, Kasabach-Merritt現象の治療後に生じたRadiation-induced schwannomaの1例, 第35回 日本骨軟部放射線研究会(福岡)2025年1月17-18日(見込み)
5	がん看護専門看護師養成コース	高齢がん患者が治療を選択する時のがん看護専門看護師の支援の実際_高橋麻美_桐明あゆみ_益守かつき_原頼子_第39回日本がん看護学会学術集会_2025年_2月22日~23日_札幌
6	がん看護専門看護師養成コース	終末期肺がん患者の最後の療養場所をめぐる患者と家族の揺れに対する訪問看護師に認識と関わり_高津康弘_原頼子_桐明あゆみ_第39回日本がん看護学会学術集会_2025年2月22日~23日札幌

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	産業医科大学
コーディネーター	吉野 潔
事務担当者	岡本 舞

## 1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員と事務職員の間で積極的に情報共有をしながら運営を行うため、<b>がんプロ運営委員会</b>を設置し、月1回開催した。</li> <li>・今年度「がん治療と就労の両立支援医師養成コース」と「がんゲノム医療重点コース」を設置し、大学院生5名が履修生となった。</li> <li>・「がんプロオンライン教育プラットフォーム」運用開始に伴い、講義内容の検討と収録の準備を行った。現在動画の作成とアップロード作業を進めている。</li> <li>・「がん治療と就労の両立支援医師養成コース」の履修生は、産業医科大学病院両立支援科、就学・就労支援センター連携で実施している「<b>両立支援カンファレンス</b>」（第2, 第4の木曜13時半～14時半頃）に参加した。</li> <li>・「がんゲノム医療重点コース」の履修生は産業医科大学病院遺伝カウンセリング科が実施する「<b>エキスパートパネル</b>」（毎週月曜日16時～）に参加した。</li> <li>・産業医科大学学会、産業医科大学病院がんセンターとの共催で<b>市民公開講座</b>（9/7(土)、産業医科大学ラマツィーニ大ホール、タイトル「命を守る、そして健康長寿をめざして」）を開催し、市民および履修生を含む86名が参加した。</li> <li>・産業医科大学病院がんセンター、就学・就労支援センター、両立支援科との併催で「<b>合同がんサージカルボード及び両立支援研修会</b>」（12/12(木)、ラマツィーニ小ホール、タイトル「がん患者の治療と仕事の両立支援」）を開催し、約50名が参加した。またその様子をオンライン教育コンテンツとして収録した。（2025年1月頃アップロードする予定）</li> <li>・九州がんプロ「次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース」に3名の登録があった。</li> <li>・産業医科大学のがんプロホームページを開設し、大学院コース・インテンシブコースの紹介、活動状況の報告、がんプロ関連サイトのリンクを設置し、適宜更新を行なった。 【URL】 <a href="https://www.uoeh-u.ac.jp/graduateschoolofmedicalscience/graduateschoolofmenu/ganpro.html">https://www.uoeh-u.ac.jp/graduateschoolofmedicalscience/graduateschoolofmenu/ganpro.html</a></li> </ul>
実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修生の実績として、今年度は国内学会発表が3件、英文誌掲載が1件あった。</li> <li>・今年度入学の履修生しかいないため研究成果は多くないが、<u>履修生の研究活動については、論文投稿や学会参加への援助などを行い、支援の体制を整えている。</u></li> </ul>

## 2. 各事業の取り組み状況

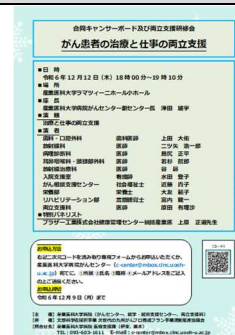
### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・「がん治療と就労の両立支援医師養成コース」に2名、「がんゲノム医療重点コース」に3名が入学した。
- ・学内でカンファレンス、セミナーに積極的に参加していただくことに加え、九州がんプロで開催される研修会等で他大学の取り組みについても知っていただき、幅広い知識を得ることを目指す。
- ・社会人大学院生の学習にも対応するため、eラーニングを積極的に活用している。



### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・合同がんセンターボード及び両立支援研修会「がん患者の治療と仕事の両立支援」（産業医科大学病院がんセンター、就学・就労支援センター、両立支援科と併催）を12/12(木)に開催し、がん診療の質の向上のための組織横断的な議論を行った。産業医科大学の特色でもある「治療と仕事の両立支援」をテーマに多職種の意見交換が行われ、治療と支援のプロセスを学ぶ上で有用な研修会となった。
- また、会場での意見交換の様子をオンライン教育用コンテンツとして収録し、アップロードする予定である。来年度以降の入学者が過去の合同がんセンターボードを聴講できるほか、他大学の教育の一助ともするべく、今後もオンライン教育を活用していく。



### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・市民公開講座「命を守る、そして健康長寿をめざして」（産業医科大学学会、産業医科大学病院がんセンターと共催）を9/7(土)に開催し、市民等86名が参加した。今年度は戸別配布型のフリーペーパーとホームページで周知を行った。
- ・大学ホームページにがんプロ専用のページを開設した。（更新回数8回、閲覧数332件）
- コースの概要や活動状況を掲載することで情報発信を行っている。
- また、Webページ内にがんプロ関連サイトへのリンクを設置し、情報収集や各種手続きを円滑に行えるようにした。
- 今後も本事業の認知度向上のため関連行事の情報発信に努める。



### ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・履修生は両立支援カンファレンス（両立支援科、就学・就労支援センター）やエキスパートパネル（遺伝カウンセリング科）で症例検討を行い、がん治療・支援に関する知識を深めている。
- ・12/12(木)開催の「合同がんセンターボード及び両立支援研修会」では医師や看護師、栄養士など多職種が参加しており、各科の取り組みについて意見交換が行われた。今後も各科や多職種での連携を図っていく。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

### 理由・分析等

今年度より九州がんプロに正式参加し履修生を5名受け入れたところであり、これから活動を展開していく段階にある。

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

今後産業医大におけるがんプロ活動が活性化するよう計画的に行動していく必要がある。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	産業医科大学
-----	--------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん治療と就労の両立支援医師養成コース（博士課程）	<u>Ueda T</u> , <u>Oe S</u> , <u>Harada M</u> , et al. A case of adrenal metastasis of hepatocellular carcinoma diagnosed by endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration. DEN Open. 2024 Apr 10;4(1):e362.

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がんゲノム医療重点コース（博士課程）	<u>田中完治</u> , 転移性肺腫瘍に対して右下葉スリーブ切除術を施行した1例, 第57回胸部外科学会九州地方会総会（福岡）2024年8月1日
2	がんゲノム医療重点コース（博士課程）	<u>田中完治</u> , <u>森 将鷹</u> , <u>金勝 樹力</u> , <u>長南 明莉</u> , <u>富安 祐太郎</u> , <u>山田 侃</u> , <u>武 伸行</u> , <u>橋本 鉄平</u> , <u>藤田 康博</u> , <u>吉松 克真</u> , <u>根本 由希子</u> , <u>松宮 弘喜</u> , <u>竹中 賢</u> , <u>黒田 耕志</u> , <u>田中 文啓</u> , 右悪性胸膜中皮腫に対して免疫治療後サルベージ手術を行い病理学的完全奏効を認めた1例, 第5回日本石綿・中皮腫学会学術集会（岡山）2024年9月28日
3	がんゲノム医療重点コース（博士課程）	<u>藤田 康博</u> , <u>森 将鷹</u> , <u>金勝 樹力</u> , <u>富安 祐太郎</u> , <u>山田 侃</u> , <u>長南 明莉</u> , <u>武 伸行</u> , <u>田中 完治</u> , <u>橋本 鉄平</u> , <u>吉松 克真</u> , <u>根本 有希子</u> , <u>松宮 弘喜</u> , <u>竹中 賢</u> , <u>黒田 耕志</u> , <u>田中 文啓</u> , 高齢及びPS不良例の進展型小細胞肺癌に対する免疫化学療法の有効性に関する検討, 第65回日本肺癌学会学術集会（神奈川）2024年11月2日



## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	佐賀大学
コーディネーター	勝屋 弘雄
事務担当者	坂元 妙子

## 1. 概要

## テーマ

- テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
- テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。
- テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

## 各テーマに対する今年度の実績

## 【テーマ①】

本学では、がん医療の現場で顕在化している課題に対応するため、多職種が連携した組織（がんセンター・臨床腫瘍班）を中心に以下の取り組みを実施した。

## ● がん診療セミナー

新規抗がん薬の増加や高齢者治療の拡大に伴い、安全かつ効果的な治療を推進するため、がん診療に関する最新知識を学ぶセミナーを実施した。本セミナーは医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、MSW（医療ソーシャルワーカー）などの多職種および履修生を対象に行い、がん診療支援の充実を図った。

第1回	令和6年7月4日	1から学ぶがんゲノム検査	がんゲノム診療部門長 中島千穂
第2回	令和6年8月22日	①がん薬物療法の変遷 抗がん薬とがん薬物療法の基礎知識 ②がん薬物療法におけるセルフケア支援	副薬剤部長 木村早希子 がん化学療法看護認定看護師 大久保留美子
第3回	令和6年9月26日	骨髄抑制期、発熱性好中球減少症の定義、初期治療について	血液腫瘍内科 三橋達也
第4回	令和6年10月24日	①irAEの主な症状について ②irAEの主な症状と患者のセルフケア支援について	薬剤部 古野龍也 がん化学療法看護認定看護師 池田光代
第5回	令和6年11月26日	地域におけるがん診療と地域連携の役割	西田病院副院長 西田良介、看護師長 正木晶子
第6回	令和6年12月26日	①がんの診断から標準治療と効果判定 ②治療段階における意思決定支援について	がんセンター長 勝屋弘雄 乳がん看護認定看護師 白濱泉



第2回がん診療セミナー



第5回がん診療セミナー

## ● 多種職カンファレンス

血液・腫瘍内科や消化器癌カンファレンス、希少がんキャンサーボードにおいて履修生が症例検討を行った。造血幹細胞移植に必要な高度な知識と技術を習得するため、移植カンファレンスを実地研修として活用した。

## ● 化学療法プロトコール委員

履修生は院内の化学療法プロトコール委員の一員として、がん治療認定薬剤師や看護師とともに化学療法レジメンの事前審査を行い、がん薬物療法専門医に必要な知識と技術を習得した。

- **がんゲノム医療**

京都大学医学部附属病院がんゲノム医療中核拠点病院と連携し、エキスパートパネルや院内の事前勉強会に履修生を参加させることで、実地のゲノム医療を学ばせた。

- **【テーマ②】**

履修生は臨床遺伝専門医の指導のもと、遺伝カウンセリング事前定例ミーティングに参加し、専門家らとともに遺伝カウンセリングの事前検討および症例報告を行った。

- **【テーマ③】**

佐賀大学医学部の創薬科学講座では、DNA脱メチル化薬「OR-2100」の研究開発を進めており、履修生は基礎研究や臨床試験に参加し、必要な知識と技術を習得している。また、履修生は定例会議や学会活動を通じて、治験に関する知見を深めた。

**実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）**

**がん診療セミナー**

がん薬物療法を中心としたがん診療に必要な知識、また専門看護師による患者のセルフケア支援についての講演を受講した。第5回のセミナーでは、佐賀県伊万里市の緩和ケア病棟の医師と看護師に地域におけるがん診療と地域連携の重要性について学んだ。履修生はがん診療に必要な知識を習得し、地域におけるがん診療と連携の重要性について学んだ。これにより、県内でがん薬物療法専門医としての役割を果たす人材養成を進めた。

- **多種職カンファレンス**

履修生は症例提示や討論を通じ、疾患や化学療法の知識を深めるとともに、チーム医療の重要性とリーダーシップの役割を理解した。

- **化学療法プロトコール委員**

履修生は年間約50件の化学療法レジメン審査に関与し、がん薬物療法専門医に必要な幅広い知識を得た。

- **がんゲノム医療**

エキスパートパネルでの症例検討やレポート作成を通じて、履修生の考察力と情報検索能力を向上させた。

- **遺伝カウンセリング**

患者および家族への影響を考慮した支援プロセスを学び、遺伝性腫瘍に関する知識を深めた。

- **新規薬剤の開発**

履修生は新規薬剤の基礎研究および臨床試験を通じて、研究成果の発表や他分野との協働を経験し、実践的なスキルを習得した。

## 2. 各事業の取り組み状況

**①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）**

- **【高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース】**

本コースでは、3年生1名、2年生1名が在籍している。履修生は内服DNA脱メチル化薬「OR-2100」によるマウス実験を通じ、内服継続が発がんを予防する効果（Yamamoto Y. et al. Leukemia 2024）や、ピリミジンヌクレオチド代謝の再プログラミングがT細胞の増殖に及ぼす影響（Watanabe T. et al. Blood Adv. 2024）を明らかにした。ダブルヒットB細胞リンパ腫に対するDNA脱メチル化薬の効果と作用機序の研究を続けており、11月8日に開催された九州がんプロ履修生の「教育研究成果発表会」では優秀発表に選ばれた。

**② シンポジウム、セミナー、講習会等**

**がん診療セミナー**

毎月1回夕方に開催している。専門的ながんチーム診療を構築するために有用な内容を含み、継続実施中である。

- **鶴居リンパ腫ワークショップ**

2024年7月26日、28日に福岡市志賀島で開催。悪性リンパ腫やがんゲノム検査に関する最新知見の習得、研究者との交流を目的とした。この中で、今後始まる造血器腫瘍におけるがんゲノム医療について九州大学プレジジョン医学講座教授の講演、九州大学病院腫瘍内科の先生による固形がんを用いたがんゲノム エキスパートパネルグループワーキング、佐賀大学遺伝カウンセリング室長によるがん遺伝子パネル検査の2次的所見についての講演を実施した。また、履修生は「成人T細胞白血病リンパ腫の微小残存病変検出法」をテーマに発表した。

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

#### ホームページ

がん診療セミナーの案内を医学部附属病院ホームページに掲載し、広く情報を発信した。

#### ● 県民公開講座

「がん予防について学ぼう」をテーマにした講演をWeb形式で実施予定。令和7年2月1日から3月31日まで視聴可能。

#### ● 広報誌「がん診療ニュース」

令和6年10月に発刊。佐賀県内4つのがん診療連携病院に関する紹介を含めた内容を掲載。

#### ● 新聞掲載

創薬科学講座が開発するDNA脱メチル化薬「OR-2100」の研究成果を令和6年6月25日の佐賀新聞に掲載。

### ③ 大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

#### 佐賀県がん診療連携協議会

佐賀大学附属病院は県内3つのがん診療連携病院と協働し、連携強化を推進。令和6年度協議会を令和6年3月14日に開催予定。

#### ④ がん化学療法チーム研修会

年2回実施。県内医療機関から医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーが参加し、化学療法に関する課題を共有し、解決策を検討している。

#### ⑤ 小児がん拠点病院との連携

九州大学小児科と月1回テレビ会議を実施。骨髄移植や術後管理、フォローアップなどの分担を行い、24時間体制で県内中核病院との連携を確保している。

#### ⑥ 佐賀県緩和ケアにおける連携協力カンファレンス

毎月開催し、地域医療機関との緩和ケア連携を推進。県内の病院、訪問看護ステーション、在宅療養支援診療所など約30施設が参加。

#### ⑦ 希少がん診療連携に関する会議

九州大学を中心に九州・沖縄・山口地域で開催される会議に参加し、希少がん診療の情報を共有。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:あと少しで目標を達成できる

#### 理由・分析等

新たに毎月のがん診療セミナー開催を開始し、がん診療に携わる人材育成のための取り組みは十分にできていると考えている。第4期の2年目であり、今年度がん薬物療法専門医試験を受ける予定である。また新規薬剤開発に関わる人材として、現在履修生の1人は論文投稿中である。

以上よりまだ専門医取得までは至っていないこと、論文投稿中であることより「b」とした。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

来年度も新たな履修生を募集するため、積極的に学内への案内を行っていく必要がある。また、がんプロ企画によるがん診療に携わる人材育成のための取り組みを院内セミナーや地域との連携協議会で案内し、募集を募っていく。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	佐賀大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Ureshino H, Kamachi K, <u>Kidoguchi K</u> , Kimura S. IFN- $\alpha$ treatment may enable discontinuation of TKIs in NK cell-licensed patients with CML-CP. <i>EJHaem</i> , 5:1278-1282, 2024
2	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Kusaba K, Watanabe T, <u>Kidoguchi K</u> , Yamamoto Y, Tomoda A, Hoshiko T, Kojima N, Nakata S, Kimura S. Targeting Oxidative Phosphorylation with a Novel Thiophene Carboxamide Increases the Efficacy of Imatinib against Leukemic Stem Cells in Chronic Myeloid Leukemia. <i>Int J Mol Sci</i> . 25:11093, 2024
3	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Kubota Y, Sano H, Takeda Y, Yamaguchi K, Nakamura H, Kai K, <u>Kidoguchi K</u> , Kusaba K, Yokoo M, Ando T, Sueoka E, Kimura S. Pure Red Cell Aplasia in a Patient with Thymic Hyperplasia, Hypogammaglobulinemia and Adult T-cell Leukemia/Lymphoma. <i>Intern Med</i> . 2024
4	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Yamamoto Y, Watanabe T, Ureshino H, Kurahashi Y, Fukuda-Kurahashi Y, Kamachi K, Kawasoe K, <u>Kidoguchi K</u> , Yamashita S, Hattori N, Ushijima T, Kimura S. DNA demethylating agents for chemoprevention of oncovirus-associated leukemogenesis. <i>Leukemia</i> . 38:1613-1616, 2024
5	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	Watanabe T, Yamamoto Y, Kurahashi Y, Kawasoe K, <u>Kidoguchi K</u> , Ureshino H, Kamachi K, Yoshida-Sakai N, Fukuda-Kurahashi Y, Nakamura H, Okada S, Sueoka E, Kimura S. Reprogramming of pyrimidine nucleotide metabolism supports vigorous cell proliferation of normal and malignant T cells. <i>Blood Adv</i> .8:1345-1358, 2024

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	<u>城戸口啓介</u> Double hit lymphoma を対象としたOR-2100併用CHOPの有効性と安全性, 第28回日本がん分子標的治療学会学術集会(東京)2024年6月21日
2	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	<u>城戸口啓介</u> Orally bioavailable DNA demethylating agent OR-2100 inhibits the tumor growth of double hit lymphoma, 第86回日本血液学会学術集会(京都)2024年10月12日

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	長崎大学
コーディネーター	大学院医歯薬学総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授 芦澤 和人
事務担当者	生命医科学域・研究所事務部 学務課 主査（大学院）中尾 陶奈

## 1. 概要

テーマ
○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成
○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

## 各テーマに対する今年度の実績

今年度は、テーマ①に対応する「多面的がん診療専門医師・歯科医師養成コース」に1名、テーマ②に対応する「遺伝看護・遺伝カウンセリングコース」に2名、テーマ③に対応する「がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース」に3名、の学生を受け入れ、昨年度までの在籍する大学院生とともに、人材育成を行った。

- ・今期を含めた在籍するがんプロ大学院生に対し、e-learningの聴講、薬物療法・緩和医療を必須とした臨床実習を行った。
- ・ゲノム医療の臨床実装に向けて、がんプロ教員及び大学院生は、がんゲノム医療に関する学会や講演会へ積極的に参加した。がんゲノム医療拠点病院である本学病院のエキスパートパネル（Genomic Cancer Board:GCB）、事前のMolecular Tumor Board (MTB) 及びClinical Tumor Board (CTB) へ、がんプロ大学院生が積極的に参加した。
- ・大学院生に対し、在宅医療実習または離島・僻地実習を継続して行い、がん医療の現場で顕在化している課題を学んだ。
- ・大学院生は、外来化学療法室及び緩和ケア外来、さらに核医学治療や放射線治療での実習並びにカンファレンスに参加し、またレジメン審査委員会への参加、腫瘍循環器外来の見学などを行った。
- ・大学病院のがん診療センターが主催する多職種を対象としたがん診療連携拠点病院研修会を共催し、がんプロ教員や大学院生だけでなく、多職種が多く参加した。
- ・九州がんプロ全体研修会を長崎大学が主幹校として開催した。



(在宅医療実習)



(九州がんプロ全体研修会 出島メッセ長崎 12月14日-15日)



## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

- がんゲノム医療や放射線治療に関する講演会、大学病院がん診療センターとの共催の研修会（がん対策やコミュニケーションスキル）への参加並びに薬物療法及び緩和ケア等に関する実習を通して、がん専門医療人の養成を行ってきた。さらに、在宅医療実習または離島・僻地実習を行うことで、地域医療や離島・僻地医療を理解し、がん医療の現場で顕在化している課題を学んだ。がんゲノム医療では、遺伝子パネル検査症例のエキスパートパネル（Genomic Cancer Board: GCB）、事前のMolecular Tumor Board (MTB)、Clinical Tumor Board (CTB) 及びがん診療センター主催の院内がん診療ボードへ大学院生が積極的に参加することで、学生のキャリア教育を進めた。



2024年度第5回Cancer Board（8月5日）

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- 今年度、多面的がん診療専門医師・歯科医師養成コース1名、がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース3名、遺伝看護・遺伝カウンセリングコース2名の学生を受け入れ、昨年度までに在籍する学生とともに、がんゲノム医療や個別化医療を含めたがん診療に関して、e-learningの聴講や実習を通して、専門医療人の育成を行なった。
- 在籍する大学院生が、上述のプログラムを通して得たがん専門分野の知識・技能を用いることにより、これまでの研究成果に関する学会発表及び論文作成を行った。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

- 大学院生が、がんゲノム医療や個別化医療を含めたがん診療に関する講演会及び研修会に参加することで、がん診療に関する重要な知識を習得した。また、エキスパートパネル（Genomic Cancer Board: GCB）、事前のMolecular Tumor Board (MTB)、Clinical Tumor Board (CTB) 及び院内がん診療ボードに参加し、専門スタッフの討論に関する理解を深めることができた。
- 長崎大学がんプロ記念講演会（2月開催予定）では、オンラインを用いて、「腫瘍循環器学」をテーマに開催する予定である。

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- 今年度は「がん治療を支える緩和ケア」「『悪性リンパ腫』どんな病気？」をテーマにして、大学病院のがん診療センターが主催する県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催し、専門スタッフと特別ゲストによる講演で、県民への情報発信を行った。
- これまで大学院生の在宅医療実習及び離島・僻地実習の報告書をHPに掲載し、ライフステージに応じた地域がん医療に貢献する学生の活動に関する情報を発信している。



(2024年度 県民公開講座 10月5日 長崎ブリックホール)

#### ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- 大学病院（県がん診療連携拠点病院）と連携し、大学病院がん診療センターが主催する多職種を対象とした研修会や県民公開講座「がんについてよく知ろう」を共催した。
- 大学院生に対して、大学病院内での薬物療法及び緩和ケアに関する臨床実習を行い、チーム医療や多職種連携の重要性を学習した。
- 院内で定期開催される緩和ケアカンファレンス、エキスパートパネル (Genomic Cancer Board:GCB)、事前のMolecular Tumor Board (MTB)、Clinical Tumor Board (CTB) 及び院内がんセンターボードに大学院生が積極的に参加し、さらに在宅医療実習及び離島・僻地実習等を含めて、病病連携及び病診連携を強化するよう努めた。

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

#### 理由・分析等

今年度、多面的がん診療専門医師・歯科医師養成コース1名、がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース3名、遺伝看護・遺伝カウンセリングコース2名の学生を受け入れ、昨年度までに在籍する学生とともに、がんゲノム医療や個別化医療を含めたがん診療に関して、e-learningの聴講や実習を通して、専門医療人の育成を行った。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

来年度は、テーマ①～③を念頭にさらなる大学院生の受け入れを行い、第3期入学の在籍中の大学院生とともに、引き続き、次世代のがん専門医療人育成の教育を実施していきたい。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	長崎大学
-----	------

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻、放射線医療科学専攻 <u>がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース</u> （博士課程）	<u>Fumiko Hayashi</u> , Shinnosuke Takemoto, Ryosuke Ogata, Yasuhiro Umeyma, Katsumi Nakatomi, Takaya Ikeda, Nanae Sugasaki, Seiji Doi, Midori Matsuo, Hirokazu Taniguchi, Hiroshi Gyotoku, Shinya Tomari, Minoru Fukuda, Hiroshi Soda, Hiroshi Mukae. Nab-TET: A phase II clinical trial on the efficacy and safety of carboplatin plus nab-paclitaxel in chemotherapeutic-naïve advanced or recurrent thymic epithelial tumors. The 28th Congress of the Asian Pacific Society of Respiratory (Hong Kong) 2024.11.8

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻、放射線医療科学専攻 <u>がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース</u> （博士課程）	<u>林 史子</u> , 竹本真之輔, 行徳 宏, 谷口 寛和, 松尾 緑, 本田 徳鷹, 朝野 寛視, 小野沙和奈, 赤城 和優, 田川 隆太, 板垣 亮里, 迎 寛, TBNAの組織検体不良例における細胞診検体と肺癌N因子陰性一致率に関する考察. 第47回 日本呼吸器内視鏡学会学術集会（大阪）2024/6/27
2	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻、放射線医療科学専攻 <u>がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース</u> （博士課程）	<u>西村紗央里</u> , モガムリズム併用化学療法後に長期寛解を維持している成人T細胞白血病リンパ腫, 第86回日本血液学会学術集会(京都)2024年10月13日
3	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻、放射線医療科学専攻 <u>がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース</u> （博士課程）	<u>西村紗央里</u> , バレトスタットが有効であった再発難治成人T細胞白血病リンパ腫, 第10回日本HTLV-1学会学術集会(東京)2024年11月9日

○ その他(受賞等)

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻、放射線医療科学専攻 <u>がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース</u> （博士課程）	<u>林 史子</u> : 日本呼吸器学会 海外学会参加助成/APSR2024 Hong Kong



## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	熊本大学
コーディネーター	岡部 弘尚
事務担当者	出崎 由紀子

## 1. 概要

テーマ
<ul style="list-style-type: none"> <li>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</li> <li>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</li> <li>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</li> </ul>

各テーマに対する今年度の実績
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度は「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」の新規加入者は4名、「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」の加入者は1名となり、目標を達成することができた。前年度から引き続きがんプロ事業に取り組み、「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」の在籍者7名および「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」の在籍者1名に対し、消化器におけるがん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成を図った。</li> <li>・「肝臓専門医」2名（取得見込み）、「がん治療認定医」1名、「消化器外科専門医」2名、「消化器病専門医」1名「日本内視鏡外科学会技術認定医」1名（取得見込み）、「消化器内視鏡専門医」1名、「乳癌マンモグラフィ読影認定医」1名、「外科専門医」1名が専門医資格を取得、もしくは今年度中に取得見込みである。</li> <li>・消化器がんに関するセミナーを4回開催した。また、がん専門薬剤師養成・特別講演を3回開催予定である。セミナーには大学院生、医師、薬剤師、看護師及び理学療法士等、総計で170名を超える多職種への参加があった。</li> <li>・American Association for Cancer Researchでの国際学会及び日本外科学会、日本肝臓学会総会、日本消化器外科学会総会、日本食道学会学術集会等の国内学会でコース生の多くが参加し、研究成果を発信するとともに、最先端のがん研究について学ぶ機会を得ることができた。</li> <li>・特に、「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」では、今年度より受講者を受け入れ開始し、がん患者個別のライフステージ・QOLに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師の育成に努めている。</li> </ul>
実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床研修に従事しながら大学院生として研究を行うことで、臨床と研究のバランスの取れたがん専門医の育成を行うことができ、また、専門医資格取得のサポートにも務め、専門医資格を複数名が取得することができた。</li> <li>・研究国際学会で1件、国内学会で31件（うち2件は発表予定）の研究発表をコース生が行い、希少がんに対する研究成果を広く情報発信することができた。</li> <li>・4回開催した「消化器がんに関するセミナー」ではオンラインやハイブリッド形式で実施することで県内のみならず、県外からも多くの参加者があり、最先端のがん治療に関する情報を発信し、多職種人材の育成に貢献することができた。</li> <li>・3回開催予定である「がん専門薬剤師養成・特別講演」では、国内外で先駆的に活躍する講師（医師・薬剤師）によるセミナーを通して、がん治療の現状およびがん薬物療法の課題を学ぶと共に、それらを克服するための薬剤師の役割（TDMや副作用コントロール等）、さらにはがん専門薬剤師・がん薬物療法専門医制度等についても触れることで、がん薬物療法に関して全般的知識を得ることができる。</li> </ul>

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

- ・研修医・大学院一体型がん専門博士養成コースでは3月に2名、ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コースでは今年度中に1名がコースを修了予定である。
- ・「肝臓専門医」2名（取得見込み）、「がん治療認定医」1名、「消化器外科専門医」1名、「消化器病専門医」1名「日本内視鏡外科学会技術認定医」1名（取得見込み）、「消化器内視鏡専門医」1名、「乳癌マンモグラフィ読影認定医」1名が専門医資格を取得することができ、即戦力となる人材を養成することができた。
- ・臨床と研究のバランスのとれた育成を行うことで、コース生の論文が英文誌に11編、国内誌に3編掲載された。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・消化器がんに関するセミナーを4回開催し、コース生、医師、看護師等総計で170名を超える参加があった。セミナーでは国立がんセンター中央病院、鹿児島大学、四国がんセンター、岩手医科大学、Memorial Sloan Kettering Cancer Center等から講師を招き、消化器がんに関する最新の治療法に関して学ぶ機会を得ることができた。

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・本学のがんプロWebサイトを通して、「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」、「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」それぞれのコースの特色等についての紹介を行っている。
- ・セミナー情報やコース生の受賞情報について、Webサイトを通して計6回の更新を行い、がんプロコースの取り組みについて、地域へ広く情報発信を行った。



### ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」ではコース生が本学病院で診療やカンファレンスに参加し、がん治療と緩和ケア等の実際を学ぶ機会を得ることができた。
- ・消化器がんに関するセミナーでは本学病院の医師が講師として消化器がんの最新治療に関する講演を行い、コース生、医師、薬剤師等多職種の方へ情報発信を行った。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

### 理由・分析等

- ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」では7名の在籍者が英文雑誌への論文の投稿や国際学会及び国内学会で発表を行う等、がん治療に関する研究成果を広く発信するとともに、先進事例を積極的に収集することができた。
- ・専門医資格取得に向けたサポートを強化し、コース生ががん治療認定医、消化器外科専門医等の資格を取得することができ、がん専門人材養成に寄与することができた。
- ・平成30年度に計画した「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」について、今年度より受け入れ開始し、目標としていたコース受講者数を達成することができた。

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」では今年度の新規加入者が目標を達成することができたため、来年度も引き続き達成できるよう大学院生の確保に努める。
- ・「ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース」でも、コース受講者の確保に努めるため、あらゆるツールを活用して積極的に情報発信を行う。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	熊本大学
-----	------

○ 英文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Takuya Tajiri</u> , Kosuke Mima, Hiromitsu Hayashi et al. Association of surgical margin on prognosis after hepatectomy for colorectal cancer liver metastases with RAS mutations. <i>Surgical Oncology Insight</i> Volume 1, Issue 3, September 2024, 100069
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Jun Zhang, Lingfeng Fu, Huaitao Wang, Atsuko Yonemura, Takashi Semba, Noriko Yasuda-Yoshihara, Akiho Nishimura, <u>Takuya Tajiri</u> , Yilin Tong, Tadahito Yasuda, Tomoyuki Uchihara, Masaya Yamazaki, Yuya Okamoto, Juntaro Yamasaki, Osamu Nagano, Hideo Baba, Takatsugu Ishimoto. RAC1-mediated integrin alpha-6 expression in E-cadherin-deficient gastric cancer cells promotes interactions with the stroma and peritoneal dissemination. <i>Cancer Letters</i> Volume 591, 1 June 2024, 216901
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Kazuki Omachi</u> , Keisuke Kosumi, et al. Esophageal dedifferentiated liposarcoma resected by the cervical approach: a case report. <i>Surg Case Rep</i> 2024 Aug 28;10(1):199. doi: 10.1186/s40792-024-01990-y
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Chihiro Matsumoto, Masaaki Iwatsuki, Chishou Mitsuura, Atsushi Morito, <u>Yuto Maeda</u> , Tasuku Toihata, Keisuke Kosumi, Yoshifumi Baba, Naoya Yoshida, Hideo Baba. Textbook outcome contributes to long-term prognosis in elderly patients with esophageal squamous cell carcinoma. <i>Ann Gastroenterol Surg</i> . 2024 Mar.
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Matsumoto T, Kitano Y, Imai K, <u>Ogawa D</u> , Yumoto S, Takematsu T, Shiraiishi Y, Itoyama R, Nakagawa S, Mima K, Okabe H, Nitta H, Hayashi H, Baba H. Prognostic impact of aspirin in patients with hepatocellular carcinoma after liver resection: propensity-score-matched analysis. <i>Int J Clin Oncol</i> . 2024 Oct 22.
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Yumoto S, Hayashi H, Mima K, <u>Ogawa D</u> , Itoyama R, Kitano Y, Nakagawa S, Okabe H, Baba H. Effects of Minimally Invasive Versus Open Pancreatoduodenectomy on Short-Term Surgical Outcomes and Postoperative Nutritional and Immunological Statuses: A Single-Institution Propensity Score-Matched Study. <i>Ann Surg Open</i> . 2024 Aug 30;5(3):e487.
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Hayashi H, Liu Z, Sun Y, <u>Ogawa D</u> , Baba H. Prognostic impact of tumor marker kinetics and normalization during neoadjuvant chemotherapy for pancreatic cancer. <i>Hepatobiliary Surg Nutr</i> . 2024 Apr 3;13(2):317-320.
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Matsumoto C, Iwatsuki M, Mitsuura C, <u>Morito A</u> . Textbook outcome contributes to long-term prognosis in elderly patients with esophageal squamous cell carcinoma. <i>Ann Gastroenterol Surg</i> . 2024 Mar 26;8(5):787-794
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Ofuchi T</u> , Iwatsuki M, Matsumoto C, et al. Laparoscopic versus open abdominal lymph node dissection for esophageal squamous cell carcinoma: a propensity score matching analysis. <i>Surg. Today</i> . Dec 2024;54(12):1445-1452
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Ofuchi T</u> , Mima K, Hayashi H, et al. Impairment of perioperative activities of daily living is associated with poor prognosis following pancreatectomy for pancreatic cancer. <i>Langenbecks Arch. Surg</i> . Sep 24 2024;409(1):289
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	Mima, K., Hayashi, H., Adachi, Y., <u>Tajiri, T.</u> , <u>Ofuchi, T.</u> , Kanemitsu, K., Ogawa, D., Yumoto, S., Matsumoto, T., Itoyama, R., Kitano, Y., Nakagawa, S., Okabe, H. & Baba, H. (2024). <i>Int. J. Clin. Oncol.</i> 29, 47-54. 2024

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森戸淳, 布部創也, 噴門部LECSのテクニカルTips, <i>消化器内視鏡</i> , 36, 3, 2024
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森戸淳, 江藤弘二郎, 馬場秀夫, <i>胃GIST</i> , <i>消化器疾患最新の治療2025-2026</i>
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	三森功士, 大淵晃, 松本千尋, 津田康雄 <i>食道癌2024—基礎・臨床の最新動向—III. 食道癌の生物学 網羅的ゲノム解析の現状 日本臨牀82 巻増刊号3 (2024年5月31日発行)</i>

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	<u>Yuto Maeda</u> , Yuji Miyamoto, Mayuko Ohuchi, Yukiharu Hiyoshi, Naoya Yoshida, Hideo Baba, Changes in Skeletal Muscle Mass after Gastrointestinal Cancer Surgery by Body Composition, <i>American Association for Cancer Research</i> 2024

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	田尻拓哉、大腸癌肝転移におけるsurgical marginの意義、第124回日本外科学会（名古屋）2024年4月18-20日
2	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	田尻拓哉、術前門脈塞栓術を施行した肝細胞癌症例における新切除可能分類を基にした予後とそのリスク因子の検討、第60回日本肝臓学会総会（熊本）2024/6/13-14
3	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	田尻拓哉、Impact of surgical margin on prognostic outcomes after hepatectomy for colorectal cancer liver metastases with RAS mutations. 第60回日本肝臓学会（姫路）2024年7月12-13日
4	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	田尻拓哉、RAS変異を有する大腸癌肝転移におけるsurgical marginの意義、第79回日本消化器外科学会総会（山口）、2024年7月17-19日
5	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	田尻拓哉、AYA世代に対する低侵襲膵頭十二指腸切除の中期成績、第86回日本臨床外科学会定期学術集会（宇都宮）、2024年11月21-23日
6	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	田尻拓哉、AYA世代に対するMIPDの中長期成績、第37回日本内視鏡外科学会総会（福岡）、2024年12月5-7日
7	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大町一樹、食道癌術前化学療法の前組織学的効果判定と治療経過の検討、第124回日本外科学会定期学術集会（名古屋）2024年4月19日
8	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大町一樹、Safety and Efficacy of Endoscopic Esophagectomy for Elderly Esophageal Cancer Patients over 80 Years Old、第79回日本消化器外科学会総会（山口）2024年7月19日
9	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大町一樹、大腸癌の術後再発モニタリングのためのメチル化ctDNA assayの有用性の検討、第44回日本分子腫瘍マーカー研究会（福岡）2024年9月18日
10	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	前田裕斗、医療画像診断による術前骨格筋量の体積分析とその臨床応用、第33回 日本癌病態治療研究会（唐津） 2024年5月16日
11	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	前田裕斗、消化器癌における術前骨格筋量と長期予後の関係、NST研修会（延岡） 2024年6月8日
12	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	前田裕斗、上部消化管癌における術後骨格筋量の変化、第79回 日本消化器外科学会総会（下関） 2024年7月19日
13	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	前田裕斗、画像ソフトを用いた食道癌における術前化学療法後の骨格筋量と予後との関連、第78回日本食道学会学術集会（東京） 2024年7月4日
14	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	前田裕斗、術前骨格筋量は大腸癌Stage I-III根治切除後の予後と関連する、第49回 日本大腸肛門病学会九州地方会（福岡） 2024年9月21日
15	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	前田裕斗、胃癌根治切除症例における術前大腰筋体積と長期予後の関連、第86回 日本臨床外科学会総会（宇都宮） 2024年11月23日
16	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	前田裕斗、消化管癌に対する術前骨格筋量と長期予後の関連、JDDW 2024（神戸） 2024年10月31日
17	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	前田裕斗、画像AIソフトを使用した胃癌根治切除症例における大腰筋体積の推移の検討、第37回 日本内視鏡外科学会総会（福岡） 2024年12月4日
18	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	小川大輔、Associations between tumor markers and early recurrence in patients treated with neoadjuvant chemotherapy for pancreatic cancer, 第36回日本肝胆膵外科学会総会（広島）2024年6月29日
19	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	小川大輔、NAC-GS in resectable pancreatic cancer : efficacy and prognostic predictors, 第79回日本消化器外科学会総会（下関） 2024年7月17日
20	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	小川大輔、胆嚢病変の診断における栄養指標と診断的治療としての腹腔鏡手術の有効性の検討、第60回日本胆道学会学術集会（名古屋） 2024年10月11日
21	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森戸淳、胃切除後骨障害における幽門保存胃切除術の意義、第124回日本外科学会総会（名古屋） 2024年4月18-20日
22	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森戸淳、高齢者における胃切除後骨障害に対する幽門保存胃切除術の意義、第79回日本消化器外科学会総会（下関）、2024年7月17-19日
23	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森戸淳、噴門部良性粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下腫瘍核出術の治療成績、第37回日本内視鏡外科学会総会（福岡）2024年12月5-7日
24	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	森戸淳、胃切除後1年間での骨密度低下が骨折発生と予後に与える影響、第97回日本胃癌学会総会（愛知） 2025年3月（予定）

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

25	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	谷崎卓実, 脾機能亢進症に対するPSEと腹腔鏡下脾臓摘出術の有用性の検討, 第124回日本外科学会定期学術集会(名古屋)2024年4月18-20日
26	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	谷崎卓実, 肺癌肺転移に対してラジオ波凝固療法(RFA)を行った10例, 第79回日本消化器外科学会総会(山口)2024年7月17-19日
27	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	谷崎卓実, DP for Distal Pancreatectomy combined with celiac artery for locally advanced pancreaticoduodenal carcinoma, 第36回日本肝胆膵外科学会・学術集会(広島)2024年6月28-29日
28	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大淵昂, 肝細胞癌新規遺伝ドライバー遺伝子候補NUDT17の同定と臨床的意義 第124回日本外科学会(名古屋)2024年4月18-20日
29	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大淵昂, 肝細胞癌新規遺伝ドライバー遺伝子候補VPS45の同定と臨床的意義 第33回 日本癌病態治療研究会(唐津)2024年5月16-17日
30	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	大淵昂, 食道癌における解糖系酵素PGK1の予後予測マーカーとしての役割 第78回 日本食道学会学術集会(東京)2024年7月4-5日
31	ライフステージに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース(インテンシブコース)	米丸興, 化学療法・放射線療法に対する交叉耐性克服を可能にする腫瘍抑制遺伝子CYLDを基軸とした新規分子標的治療の開発, 日本薬学会第145年会(福岡)2025年3月26-29日(予定)

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	大分大学
コーディネーター	医学部 放射線医学講座 教授 浅山 良樹
事務担当者	医学・病院事務部学務課教務グループ 村上 有紀

## 1. 概要

テーマ	※前期から継続した目標（編集不可）
○テーマ①	がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成
○テーマ②	がん予防の推進を行う人材養成。
○テーマ③	新たな治療法を開発できる人材の養成

各テーマに対する今年度の実績
<p>1) 本年度は包括的がん治療専門医療人養成コースに医師5名、理学療法士1名、臨床工学技士1名が入学した。（テーマ①③）、インテンシブコースに9名が入学した（テーマ①②）。</p> <p>2) 日本消化器病学会 消化器病専門医1名、日本腹部救急医学会認定医1名、日本肝臓学会肝臓専門医1名を輩出した（テーマ①③）。</p> <p>3) テーマ①②に対して、事例検討会を6回、公開講座を3回、市民公開講座を1回開催（開催予定を含む）した。</p> <p>【事例検討会】</p> <p>第1回目（6/1）：若年成人期のがん患者への妊孕性への支援に関する事例検討</p> <p>第2回目（7/27）：脳腫瘍患者のACPに関する事例検討</p> <p>第3回目（9/14）：子を持つがん患者の終末期へのかかわりに関する事例検討</p> <p>第4回目（11/9）：主治医と病棟間の予後告知へのコンフリクトに対する緩和ケアチームとしてどうかかわるか</p> <p>第5回・6回目は2025年1月18日・3月実施予定</p> <p>【公開講座】</p> <p>第1回目（7/27）：がん看護の活動と魅力（講師：山口県立総合医療センター がん看護専門看護師 山本知美氏）</p> <p>第2回目（9/14）：がん看護の活動と魅力（講師：横浜市立市民病院 がん看護専門看護師 小迫富美恵氏）</p> <p>第3回目（2025/1/23予定）：患者や家族のためのがんゲノム医療と遺伝カウンセリングの連携</p> <p>【市民公開講座】</p> <p>2025年3月開催予定。</p>

実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）
<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会は、インテンシブコース生（看護）の他、がん看護に関心のある看護師（がんに関連した認定・専門看護師も含む）、多職種にも参加を呼び掛けるようにした。インテンシブコース生の事例提供を通してそれぞれの施設で顕在化した課題の解決に向けたディスカッションを実施できた。医師の参加があった際は、医学的な知見に関する意見も踏まえて意見交換が行え、がん患者の理解を深めることができた。参加した医師からも、看護師との連携を強化する旨の感想が得られた。多職種や専門・認定看護師、ジェネラリストの看護師間での意見交換を、インテンシブコース生や参加者の臨床判断能力やがん看護の質の向上に繋がり、各参加者が所属する組織でのがん患者を取り巻く課題の予防や解決に向けた活動に繋がることを期待できる</li> <li>第1・2回目公開講座では、大学院修士課程で講義担当予定の2名のがん看護専門看護師が、がん看護の魅力や実際の活動内容を講演した。がん拠点病院に関わらず一般病院、教育機関、行政関連の看護職、学部学生と幅広い参加者が得られ、啓発に繋がったと考える。第3回目公開講座では腫瘍内科医師、認定遺伝カウンセラーからの講演を予定しており、がん予防医療の推進や、がんサバイバーに対するケアを多職種で連携して実践するための知識や技術の獲得の機会となると期待する。</li> <li>3月の開催予定の公開講座では、慢性疾患とがんの関連に関して医師からの講義を組み込み、がん以外の慢性疾患に関する専門職との交流も通して、がん予防を発展させることに繋がることを期待する。</li> </ul> <p>今年度の活動を通して、令和7年度大学院生（がん看護専門看護師コース）の確保につながった。</p>

## 2. 各事業の取り組み状況

### ① 教育コース（大学院コース、インテシブコース）

#### 大学院コース関連

- 1) 学生に対し論文作成、学会発表を積極的に行うよう指導している。筆頭著者・共著者となった原著論文は英文15編、和文は10編、国際学会発表は22編、国内学会発表は31編であった。
- 2) 【がん看護専門看護師】令和7年度の学生確保に向けて公開講座の開催、および事例検討会を開催し、大学院生の確保に繋がった。インテシブコース関連ではインテシブコース生が提示した事例に関しては、成果報告書として、本学インテシブコースに提出することとしている。

### ② シンポジウム、セミナー、講習会等

- ・事例検討会を4回、公開講座を3回行った。（市民公開講座は2025年3月予定である。）がんプロ学生など学内（合計158名）のみならず、看護師、学部学生、看護学生や医師など学外（合計175名）からも参加があった。この一連のセミナーや検討会を通し、がん患者の取り巻く状況についてがんプロ学生の理解が深まった。

### ③ 地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

- ・公開講座  
チラシの配布・・・大分県内保健所、大分県内・近県病院、大分県内看護学校等、認定看護師教育機関、看護系大学協議会協会会員の合計223か所に、1115枚配布し、情報発信。
- ・事例検討会  
大分大学がんプロ・看護学専攻ホームページ上にチラシを掲載、インテシブコース登録者・大分県内のがん看護専門看護師コース修了生・令和5年度事例検討会の参加者に案内を送付した。また、大分県内のがん関連の専門看護師や認定看護師に案内のメールやチラシを送付し、がん看護に関心のある看護師へ参加の呼びかけを依頼した。

### ④ 大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

- ・医学部附属病院を含む、大分県内のがん診療連携拠点病院に所属するがん看護専門看護師（がんプロ修了生・インテシブコース生）やがん関連の認定看護師（インテシブコース生を含む）と協働した事例検討会を協働して行うことで、修了生自身のキャリアアップや現状の理解の深まり、次世代のがん看護を実践する看護職者の育成に向けた教育力の向上に繋がると考える。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

b:目標を達成できている

#### 理由・分析等

- ・博士課程1名が各種の専門医を取得した。
- ・25編の原著論文（英文15編、和文10編）を発表できた。
- ・事例検討会を4回（2025年2回予定）、公開講座を2回（2025年1回予定）、市民公開講座を1回（2025年3月予定）行った。
- ・がん予防の推進を行う人材の育成が不十分であった。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・引き続き大学院セミナー等で包括的ながん診療が可能な専門医医療人を養成する。
- ・がん予防やがんサバイバーに対応する医療人を養成すべく、各種セミナーや講習会を開催する。
- ・県下の看護師に種々の講演会を通じて大学院進学を推奨し、がん看護専門看護師の人材発掘および育成に努める。



「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	大分大学
-----	------

○ 英文誌

No.	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん治療専門医療人養成コース	Hirashita T, Fujinaga A, <u>Nagasawa Y</u> , et al. Efficacy of pancreaticojejunostomy of the pancreatic stump during distal or central pancreatectomy, <i>Langenbecks Arch Surg</i> , 409, 145, 2024
2	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Complete extraction of main pancreatic duct residual and microstones using an 8-wire basket catheter. <u>Sagami R</u> , Mizukami K, Nishikiori H, Sato T, Murakami K. <i>Endosc Int Open (Report missing IFs)</i> . 2024 Nov 18;12(11):E1349-E1355. doi: 10.1055/a-2453-2494. eCollection 2024 Nov.
3	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Efficacy and safety of intravenous thiamylal in sedation for colonoscopy in children. Ozaka S, Takahashi H, Shimomori Y, Kagoshima Y, Terashi S, Tsutsumi K, <u>Sagami R</u> , Hirashita Y, Fukuda K, Ogawa R, Kodama M, Murakami K, Mizukami K.
4	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Feasibility and safety of EUS-guided biliary drainage in inexperienced centers: a multicenter study in southwest Japan. Koga T, Ishida Y, Hashigo S, Shimokawa Y, Harima H, Okamoto K, Ohno A, Miyagahara T, Fujita T, Fukuchi S, Takahashi K, Taguchi H, Araki N, Ohtsuka Y, Uekitani T, Tsuneyoshi K, Akiyama T, Ishigaki N, Maruo T, Saito H, Ihara R, Yamasuji A, Oe S, Yoshinari M, <u>Sagami R</u> , Fujimori N, Fukuda Y, Ozawa E, Jikuya K, Shinohara H, Sen-Yo M, Ueki T, Tsuchiya N, Kitaguchi T, Matsumoto K, Fukuyama M, Hirai F.
5	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Alternative endoscopic ultrasound-guided choledochogastrostomy for anatomical inaccessibility by usual biliary drainage methods. Tsuji H, <u>Sagami R</u> , Sato T, Nishikiori H, Hiroshima Y, Mizukami K, Murakami K. <i>Endoscopy (IF: 10.09; Q1)</i> . 2024 Dec;56(S 01):E618-E619. doi: 10.1055/a-2344-8116. Epub 2024 Jul 15.
6	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Pancreatic juice cytology for diagnosing invasive pancreatic carcinoma/high-grade pancreatic intraepithelial neoplasia without visible tumors on endoscopic ultrasound. <u>Sagami R</u> , Mizukami K, Nishikiori H, Sato T, Fujiwara S, Kawamoto Y, Ome Y, Honda G, Horiguchi S1, Sato K, Murakami K. <i>Pancreatology (IF: 4; Q2)</i> . 2024 Aug;24(5):740-746. doi: 10.1016/j.pan.2024.06.006. Epub 2024 Jun 11.
7	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<sup>#</sup> <u>Terabayashi T</u> , Takezaki D., Hanada K., Matsuoka S., Sasaki T., Akamine T., Katoh A., and <sup>#</sup> Ishizaki T. <sup>#</sup> Corresponding authors Timosaponin AIII disrupts cell-extracellular matrix interactions through the inhibition of endocytic pathways. <i>Biol. Pharm. Bull.</i> 47(10):1648-1656, 2024
8	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Terabayashi T</u> , Sasaki T., Ishizaki T., Tomo T., Nishida Y., and Hanada K. Analysis of accumulations of DNA double-strand breaks in mouse tissues by pulsed-field gel electrophoresis. "Toxicology and Applied Pharmacology" in revision
9	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Ozaka S, Sonoda A, Kudo Y, Ito K, Kamiyama N, Sachi N, <u>Ozaka S</u> , Chalalal T, Kagoshima Y, Soga Y, Ekronarongchai S, Ariki S, Mizukami K, Ishizawa S, Nishiyama M, Murakami K, Takeda K, Kobayashi T. Daikenchuto, a Japanese herbal medicine, ameliorates experimental colitis in a murine model by inducing secretory leukocyte protease inhibitor and modulating the gut microbiota. <i>Front Immunol</i> . 2024 Oct 25;15:1457562.
10	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Ozaka S</u> , Takahashi H, Shimomori Y, Kagoshima Y, Terashi S, Tsutsumi K, Sagami R, Hirashita Y, Fukuda K, Ogawa R, Kodama M, Murakami K, Mizukami K. Efficacy and safety of intravenous thiamylal in sedation for colonoscopy in children. <i>DEN Open</i> . 2024 Sep 29;5(1):e70022.
11	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Kamiyama N, Ueno M, Sasaki Y, Chalalal T, Sachi N, <u>Ozaka S</u> , Soga Y, Kagoshima Y, Ekronarongchai S, Okamoto M, Yamamoto M, Kobayashi T. CCR2-dependent placental migration of inflammatory monocytes suppresses abnormal pregnancies caused by <i>Toxoplasma gondii</i> infection. <i>Int Immunol</i> . 2024 Nov 25;37(1):39-52.
12	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Ozaka S</u> , Soma R, Takahashi H, Shimomori Y, Fukuda M, Tsutsumi K, Hirashita Y, Fukuda K, Ogawa R, Mizukami K, Kagoshima Y, Sachi N, Kamiyama N, Hasegawa H, Kobayashi T, Kodama M, Murakami K. Tapeworm Infection Diagnosed after <i>Campylobacter jejuni</i> -induced Enteritis. <i>Intern Med</i> . 2024 Nov 1;63(21):2939-2942.
13	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Kamiyama N, Saechue B, Sachi N, Dewayani A, Chalalal T, <u>Ozaka S</u> , Ariki S, Soga Y, Kagoshima Y, Ekronarongchai S, Hidano S, Kobayashi T. TRAF6 signaling in T cells is crucial for the pathogenicity of experimental autoimmune encephalomyelitis. <i>Int Immunol</i> . 2024 Apr 3;36(5):241-256.
14	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Takahashi K, Sato H, Shimamura Y, Abe H, Shiwaku H, Shiota J, Sato C, Hamada K, Ominami M, Hata Y, Fukuda H, <u>Ogawa R</u> , Nakamura J, Tatsuta T, Ikebuchi Y, Yokomichi H, Terai S, Inoue H. Achalasia phenotypes and prediction of peroral endoscopic myotomy outcomes using machine learning. <i>Dig Endosc</i> . 2024 Jul;36(7):789-800.
15	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Abe M</u> , Osoegawa A, Karashima T, Takamori S, Takumi Y, Sugio K. An analysis of residual lung volume changes after segmentectomy based on three-dimensional CT. <i>Journal of Thoracic Disease</i> , 16(6):3535-3562, 2024

○ 和文誌

No.	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	【膵癌・胆道癌の早期診断に挑む】膵癌 膵癌のリスク因子, 佐上 亮太, 広島 康久, 東 祥史, 村上 和成, 水上一弘, (株)アークメディア 2024年9月 肝胆膵
2	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	【膵癌の早期発見・早期診断を目指して】膵癌早期発見における検診の現状と課題 リスク因子を踏まえて 佐上 亮太, 錦織 英史, 佐藤 孝生, 森 英輝, 水上一弘, 村上 和成, (株)東京医学社 2024年5月 (ISBN: 9784885636868)
3	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	児玉雅明, 水上一弘, 小川竜, 福田健介, 平下有香, <u>小坂聡太郎</u> , 堤康志郎, 福田昌英, 岡本 和久, 村上和成. <i>Helicobacter pylori</i> 除菌前後の完全型および不完全型腸上皮化生の分布. <i>大分県医学会雑誌</i> 32 60-65 2024年10月
4	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>小坂聡太郎</u> , 神山長慶, 長谷川英男, 水上一弘, 鹿子嶋洋明, 草場敬浩, 西田陽登, 小林隆志, 村上和成. 大腸内視鏡検査で治療経過を追ったメトロニダゾール抵抗性アメーバ性大腸炎. <i>大分県医学会雑誌</i> 31 52-56 2024年4月

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

5	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	水上一弘、兒玉雅明、村上和成. NSAID s・低用量アスピリンによる上部消化管粘膜傷害・消化管出血. 日本消化器病学会雑誌, 121(10), 791-800, 2024
6	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Takashi Karashima. Repeated intravenous injections of ICG for safe segmentectomy in non-small cell lung cancer. 大分医会誌, 32, 10-16, 2024
7	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	安部美幸. 非小細胞肺癌手術例でのTNM第9版新N分類の検討, 第124回日本外科学会定期学術集会（愛知）2024年4月20日
8	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	安部美幸. 良性・悪性気道狭窄に対する経気道的インターベンション, 第41回日本呼吸器外科学会学術集会（軽井沢）2024年5月31日
9	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	内匠陽平. 乳癌術後転移再発切除症例におけるサブタイプ変化の検討, 第32回日本乳癌学会学術総会（仙台）2024年7月12日
10	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	高森信吉. 非小細胞肺癌切除例における病理学的単独領域N1/N2と複数領域N1/N2の予後の検討, 第41回日本呼吸器外科学会学術集会（軽井沢）2024年6月1日

○ 国際学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん治療専門医療人養成コース	Nagasawa Y. et al. Pancreatoduodenectomy for pancreatic cancer after prior Peustow procedure: A case report, The 36th Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery in 2024 (Hiroshima) 2024. 6. 29
2	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	4thENDO2024Jun1-4Korea, SeoulPosterCOMPLETE EXTRACTION OF MAIN PANCREATIC DUCT RESIDUAL AND MICROSTONES USING AN 8-WIRE BASKET CATHETER <u>R. Sagami</u> , K. Mizukami, T. Sato, H. Nishikiori, K. Murakami
3	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	APDW2024Nov 22-25Bali, IndonesiaOral presentationReal circumstances of endoscopic ultrasound-guided fine needle aspiration/biopsy for pancreatic ductal adenocarcinoma ≤ 10 mm” <u>Sagami R</u> , Nakahodo J, Minami R, Yamao K, Yoshida A, Azuma Y, Hiroshima Y, Nishikiori H, Takenaka M, Mizukami K, Murakami K
4	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	APA-JPS-IAP-CAP 2024 MeetingDec 7-11Maui, USAPoster“How Do We Diagnose Pancreatic High-risk Lesions Without Visible Tumors on Endoscopic Ultrasound? The Importance of Pancreatic Juice Cytology Should Be Reviewed” <u>R. SAGAMI</u> , K. MIZUKAMI, and K. MURAKAMI
5	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Ozaka S</u> , Kagoshima Y, Kamiyama N, Sachi N, Ecronarongchai S, Soga Y, Mizukami K, Murakami K, Kobayashi T. COLON PROTECTIVE EFFECT OF JAPANESE KAMPO MEDICINE DAIKENCHUTO BY MODULATING GUT MICROBIOTA AND INDUCING SLPI. 46th ESPEN CONGRESS (Milan) 2024. 09. 09.
6	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	<u>Mizukami K</u> . Role of doctor in building ESD team. 2nd A-PSDE VFDE Nurse Train-the-trainer Workshop (Vietnam) 2024. 09. 06
7	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Sagami R, Nakahodo J, Minami R, Yamao K, Yoshida A, Nishikiori H, Takenaka M, <u>Mizukami K</u> , Murakami K. True diagnostic ability of EUS-guided fine-needle aspiration/biopsy sampling for small pancreatic lesions ≤10 mm and salvage diagnosis by pancreatic juice cytology: a multicenter study. Gastrointest Endosc. 2024 Jan;99(1):73-80.
8	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Omori J, Kaise M, Nagata N, Aoki T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, <u>Mizukami K</u> , Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Hikichi T, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaïke K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Iwakiri K. Characteristics, outcomes, and risk factors of surgery for acute lower gastrointestinal bleeding: nationwide cohort study of 10,342 hematochezia cases. J Gastroenterol . 2024 Jan;59(1):24-33.
9	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Tominaga N, Sadashima E, Aoki T, Fujita M, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, <u>Mizukami K</u> , Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Hikichi T, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaïke K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Miki K, Watanabe K, Kaise M, Nagata N. A novel prediction tool for mortality in patients with acute lower gastrointestinal bleeding requiring emergency hospitalization: a large multicenter study. Sci Rep. 2024 Mar 4;14(1):5367.
10	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Kato M, Ono S, Kawada K, Dohi O, Kitamura S, Koike T, Hori S, Kanzaki H, Murao T, Yagi N, Sasaki F, Hashiguchi K, Oka S, Katada K, Shimoda R, <u>Mizukami K</u> , Suehiro M, Takeuchi T, Katsuki S, Tsuda M, Naito Y, Kawano T, Haruma K, Mori K, Ishikawa H. Diagnostic performance of linked color imaging for gastric cancer by Helicobacter pylori infection status: A subanalysis of the large-scale, multicenter randomized controlled trial LCI-FIND. Helicobacter. 2024 Mar-Apr;29(2):e13080.
11	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Sagami R, Yamao K, Minami R, Nakahodo J, Akiyama H, Nishikiori H, <u>Mizukami K</u> , Yamao K, Bhatia V, Amano Y, Murakami K. Endoscopic Ultrasound Can Differentiate High-Grade Pancreatic Intraepithelial Neoplasia, Small Pancreatic Ductal Adenocarcinoma, and Benign Stenosis. Gut Liver. 2024 Mar 15;18(2):338-347.
12	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Suzuki S, Tominaga N, Aoki T, Sadashima E, Miike T, Kawakami H, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, <u>Mizukami K</u> , Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Hikichi T, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaïke K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Kaise M, Nagata N. Association of blood group O with a recurrent risk for acute lower gastrointestinal bleeding from a multicenter cohort study. Sci Rep. 2024 Jun 17;14(1):13983.
13	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Sonoda A, <u>Mizukami K</u> , Okano S, Nishiguchi T, Yamazaki D, Horie Y, Tateishi T, Saito Y, Hirose Y, Sano H, Saito S, Takazoe M, Iwamoto S, Sako M, Fukada M. A novel method to localize patency capsule by ileo-colonoscopy facilitates endoscopic assessment of the small and large intestine in patients with Crohn's disease. Digestion. 2024 Jun 10.
14	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Ozaka S, Sonoda A, Kudo Y, Ito K, Kamiyama N, Sachi N, Chalalal T, Kagoshima Y, Soga Y, Ecronarongchai S, Arika S, <u>Mizukami K</u> , Ishizawa S, Nishiyama M, Murakami K, Takeda K, Kobayashi T. Daikenchuto, a Japanese herbal medicine, ameliorates experimental colitis in a murine model by inducing secretory leukocyte protease inhibitor and modulating the gut microbiota. Front Immunol. 2024 Oct 25;15:1457562.
15	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Kinjo K, Aoki T, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, <u>Mizukami K</u> , Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Suzuki S, Narasaka T, Hayasaka J, Funabiki T, Kinjo Y, Mizuki A, Kiyotoki S, Mikami T, Gushima R, Fujii H, Fuyuno Y, Hikichi T, Toya Y, Narimatsu K, Manabe N, Nagaïke K, Kinjo T, Sumida Y, Funakoshi S, Kobayashi K, Matsuhashi T, Komaki Y, Watanabe K, Hisabe T, Yao K, Kaise M, Nagata N. Validation of British Society of Gastroenterology guidelines for acute lower gastrointestinal bleeding from 8,956 cases in Japan. Gastrointest Endosc. 2024 Nov 16;S0016-5107(24)03730-1.

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

16	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Fukuda K, Mizukami K, Yamaguchi D, Tanaka Y, Hashiguchi K, Akutagawa T, Shimoda R, Suzuki S, Miike T, Sumida Y, Maeda H, Sasaki F, Gushima R, Miyamoto H, Hashiguchi K, Yamaguchi N, Ohira T, Kinjo T, Ohnita K, Moriyama T, Ohtsu K, Aso A, Ogawa R, Ueo T, Fukuda M. Analysis of clinicopathological factors associate with the visibility of early gastric cancer in endoscopic examination and usefulness of linked color imaging: A multicenter prospective study. PLoS One. 2024 Nov 5;19(11):e0312385.
17	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Sagami R, Mizukami K, Nishikiori H, Sato T, Fujiwara S, Kawamoto Y, Ome Y, Honda G, Horiguchi SI, Sato K, Murakami K. Pancreatic juice cytology for diagnosing invasive pancreatic carcinoma/high-grade pancreatic intraepithelial neoplasia without visible tumors on endoscopic ultrasound. Pancreatolgy. 2024 Jun 11:S1424-3903(24)00661-6.
18	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Ozaka S, Takahashi H, Shimomori Y, Kagoshima Y, Terashi S, Tsutsumi K, Sagami R, Hirashita Y, Fukuda K, Ogawa R, Kodama M, Murakami K, Mizukami K. Efficacy and safety of intravenous thiamylal in sedation for colonoscopy in children. DEN Open. 2024 Sep 29;5(1):e70022.
19	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Tsuiji H, Sagami R, Sato T, Nishikiori H, Hiroshima Y, Mizukami K, Murakami K. Alternative endoscopic ultrasound-guided choledochogastrostomy for anatomical inaccessibility by usual biliary drainage methods. Endoscopy. 2024 Dec;56(S 01):E618-E619.
20	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Sagami R, Mizukami K, Nishikiori H, Sato T, Murakami K. Complete extraction of main pancreatic duct residual and microstones using an 8-wire basket catheter. Endosc Int Open. 2024 Nov 18;12(11):E1349-E1355.
21	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Aoki T, Sadashima E, Kobayashi K, Yamauchi A, Yamada A, Omori J, Ikeya T, Aoyama T, Tominaga N, Sato Y, Kishino T, Ishii N, Sawada T, Murata M, Takao A, Mizukami K, Kinjo K, Fujimori S, Uotani T, Fujita M, Sato H, Hayakawa Y, Fujishiro M, Kaise M, Nagata N; CODE BLUE-J Study collaborators. High risk stigmata and treatment strategy for acute lower gastrointestinal bleeding: a nationwide study in Japan. Endoscopy. 2024 Apr;56(4):291-301.
22	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Yoshiyuki Tsukamoto, Naoki Hijiya, Koshiro Tsutsumi, Masahide Fukuda, Ryota Sagami, Sotaro Ozaka, Takuro Uchida, Masao Iwao, Kensuke Fukuda, Ryo Ogawa, Mie Arakawa, Mizuki Endo, Kazuhiro Mizukami, Masaaki Kodama, Kazunari Murakami. Potential association of non-histone protein methylation in Helicobacter pylorieradicated gastric mucosa with the risk of gastric cancer. Korea-Japan H. pylori Joint Symposium(Kurashiki). 2024. 06. 22.

## ○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん治療専門医療人養成コース	長瀬由依子, 切除可能膵癌に対する術前化学療法と審査腹腔鏡の有用性, 第123回日本消化器病学会九州支部例会(小倉) 2024年6月21日
2	包括的がん治療専門医療人養成コース	長瀬由依子, 正中弓状韧带圧迫症候群を伴った膵頭部癌に対する膵頭十二指腸切除術, 第22回日本消化器外科学会大会(神戸) 2024年11月2日
3	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	第107回JGES2024年5月品川プリンスホテル一般演題一般演題座長佐上亮太
4	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	第97回日本超音波医学会第97回学術集会2024年6月パシフィック横浜パネルディスカッション(指定演者) “超音波内視鏡による10mm以下膵癌の診断を目指して-間接所見の重要性と客観性の検討-” 佐上亮太, 山雄 健太郎, 仲程 純, 南 竜輝, 岡本 和久, 広島 康久, 東 祥史, 水上一弘, 村上 和成
5	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	第55回JPS2024年7月ライトキューブ宇都宮シンポジウム(指定演者) 症状とリスク因子重複を考慮した効率的な膵癌早期診断とEUS介入の重要性佐上亮太, 錦織英史, 村上和成
6	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	第78回日本画像診断研究会2024年9月はまぎんヴィアマレープレナリーセッション診断後11か月で術後再発を来したHigh-grade PanINの一例佐上亮太, 佐上亮太, 錦織英史, 辻博晶, 佐藤孝生, 広島康久, 藤原省三, 本田 五郎, 堀口慎一郎, 水上一弘, 村上 和成
7	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	第32回JDDW2024年10月神戸国際会議場ポスター医療費を勘案した内視鏡的胆嚢ドレナージ(EGBD)の有用性佐上亮太, 錦織英史, 佐藤孝生, 辻博晶, 東祥史, 広島康久, 岡本和久, 小坂聡太郎, 福田昌英, 堤康志郎, 平下有香, 岩尾正雄, 荒川光江, 福田健介, 小川竜, 内田宅郎, 遠藤美月, 水上一弘, 村上和成
8	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	第123回日本消化器病学会九州支部例会・第117回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 北九州国際会議場 2024年06月21日-06月22日 SY-2 胆膵疾患に対するインターベンションの現状と今後の課題 EUS-BD導入における手技不成功と合併症に関する検討 佐上亮太, 水上一弘, 岡本和久, 野口地塩, 川原義成, 大塚雄一郎, 福地聡士, 錦織英史, 村上和成
9	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	第124回日本消化器病学会九州支部例会・第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会 ライカ南国ホール・TKP鹿児島 2024年11月15日-11月16日ランチョンセミナー 治療困難結石完全攻略を目指して~適材適所のデバイス選択~佐上亮太
10	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	西澤俊哉, 寺林 健, 佐々木隆子, 山西芳裕, 石崎敏理 神経伝達物質シグナルはシスプラチン誘発急性腎障害に対して保護効果を示す. 第67回日本腎臓学会学術総会(横浜) 2024年6月30日
11	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	Toshiya Nishizawa, Takeshi Terabayashi, Takako Sasaki, Yoshihiro Yamaniishi and Toshimasa Ishizaki DRD2 signaling ameliorates cisplatin-induced kidney injury. 第130回日本解剖学会・第102回日本生理学会・第98回日本薬理学会合同大会(幕張) 2025年3月17日
12	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	小坂聡太郎, 福田健介, 小川竜, 村上和成, 水上一弘. 小児下部消化管内視鏡検査におけるチアミラールとミダゾラムの鎮静効果に関する比較検討. 第32回日本消化器関連学会週間(JDDW 2024)(神戸) 2024年11月1日
13	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	小坂聡太郎, 相馬颯介, 高橋晴彦, 水上一弘, Supanuch Ekronarongchai, 曾我泰裕, 鹿子嶋洋明, 佐知望美, 神山長慶, 長谷川英男, 小林隆志. Campylobacter jejuni感染を契機に診断された日本海裂頭糸虫症. 第76回日本寄生虫学会南日本支部大会(大分) 2024年10月13日
14	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	水上一弘, 兒玉 雅明, 福田 昌英, 平下有香, 小坂 聡太郎, 福田 健介, 小川 竜, 沖本 忠義, 村上 和成. ポストピロリの諸問題 H. pylori除菌後長期経過から考えられる除菌後胃癌のリスク評価. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 2024年6月
15	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	平下 有香, 堤 康志郎, 福田 昌英, 小坂 聡太郎, 内田 宅郎, 佐上 亮太, 岩尾 正雄, 福田 健介, 荒川 光江, 小川 竜 他. ERK活性とHP除菌後の胃粘膜における化生変化の関係. 第30回日本ヘリコバクター学会学術集会. 2024年6月
16	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	平賀 大輝, 福田 昌英, 堤 康志郎, 淀 優花, 寺師 尚平, 小坂 聡太郎, 平下 有香, 高橋 晴彦, 福田 健介, 小川 竜 他. 問診が診断の鍵となったJPS/HHT合併症候群の1症例. 第123回日本消化器病学会九州支部例会. 2024年6月

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

17	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	上尾豪志、小坂聡太郎、山中昂紀、野口地塩、水上一弘、村上和成。治療効果判定に大腸内視鏡検査が有用であったメトロニダゾール抵抗性アメーバ性大腸炎。第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会。2024年11月
18	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	寺師尚平、小坂聡太郎、高橋晴彦、福田健介、福田昌英、堤康志郎、平下有香、小川竜、水上一弘、村上和成。拡大内視鏡と治療経過から診断したセリアック病の一例。第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会。2024年11月
19	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	水上一弘、兒玉雅明、村上和成。H. pylori除菌後長期経過から考えられる除菌後胃癌のリスク評価。第30回日本ヘリコバクター学会学術集会（倉敷）2024年6月22日
20	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	水上一弘。内視鏡AIの実際～gastroAI™ model-Gでの使用経験～。第124回日本消化器病学会九州支部例会・第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）2024年11月15日
21	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	東 祥史。当院における膵周囲液体貯留に対する内視鏡的治療の検討。第124回日本消化器病学会九州支部例会/ 第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会
22	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	矢幡彌奈、狩生雅子、上野広見、村田美雪、藤原美香、畑中明子、大亀かおる、荒金郁代、河野洋平、富永志津代、猪俣雅史。がん患者における化学療法皮膚障害に対する化粧療法のQOL向上効果の検討。第9回日本がんサポーター学会（埼玉）2024年5月19日
23	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	矢幡彌奈、狩生雅子、上野広見、村田美雪、藤原美香、畑中明子、大亀かおる、荒金郁代、河野洋平、富永志津代、猪俣雅史。がん患者における化学療法皮膚障害に対する化粧療法のQOL向上効果の検討。第9回日本がんサポーター学会（埼玉）2024年5月19日
24	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	木本幸子、下部佳美、村田美雪、井上綾子、姫島詩絵、帆足紘子、上野広見、矢幡彌奈、松尾桂子、小手川千夏、古田佳代子、藤本和之、富永志津代。診断時から緩和ケアを提供するための取り組み～全診療科を対象としたがん患者指導管理料算定に向けて～、日本緩和医療学会第6回九州支部学術集会（宮崎）2024年11月16日
25	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	木本幸子、下部佳美、村田美雪、井上綾子、姫島詩絵、帆足紘子、上野広見、矢幡彌奈、松尾桂子、小手川千夏、古田佳代子、藤本和之、富永志津代。診断時から緩和ケアを提供するための取り組み～全診療科を対象としたがん患者指導管理料算定に向けて～、日本緩和医療学会第6回九州支部学術集会（宮崎）2024年11月16日
26	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	木本幸子、下部佳美、村田美雪、井上綾子、姫島詩絵、帆足紘子、上野広見、矢幡彌奈、松尾桂子、小手川千夏、古田佳代子、藤本和之、富永志津代。診断時から緩和ケアを提供するための取り組み～全診療科を対象としたがん患者指導管理料算定に向けて～、日本緩和医療学会第6回九州支部学術集会（宮崎）2024年11月16日
27	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	木本幸子、下部佳美、村田美雪、井上綾子、姫島詩絵、帆足紘子、上野広見、矢幡彌奈、松尾桂子、小手川千夏、古田佳代子、藤本和之、富永志津代。診断時から緩和ケアを提供するための取り組み～全診療科を対象としたがん患者指導管理料算定に向けて～、日本緩和医療学会第6回九州支部学術集会（宮崎）2024年11月16日
28	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	寺師尚平、小坂聡太郎、福田健介、福田昌英、高橋晴彦、堤康志郎、平下有香、小川竜、兒玉 雅明、村上和成、水上一弘。難治性十二指腸潰瘍で発症し拡大内視鏡検査と臨床経過から診断したセリアック病の1例。第124回日本消化器病学会九州支部例会・第118回日本消化器内視鏡学会九州支部例会（鹿児島）。2024年11月15日～16日
29	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	辛島 高志。cN2局所進行肺癌における術前導入療法への検討。第124回日本外科学会定期学術集会（愛知）2024年4月20日
30	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	辛島 高志。胸腺上皮性腫瘍における術前画像診断の検討。第41回 日本呼吸器外科学会学術集会（長野）2024年6月1日
31	がん予防とがんサバイバーに対応する医療人養成コース	辛島 高志。irAE脳炎に対する早期ステロイドパルス療法が有効であった2例。第65回日本肺癌学会学術集会（横浜）2024年11月1日

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	宮崎大学
コーディネーター	医学部附属病院 臨床腫瘍科・がんセンター 教授 細川 歩
事務担当者	医学部医療人育成課大学院係 係長 間野 泰孝

## 1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

## 各テーマに対する今年度の実績

○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

## 1. 包括的がん専門医療人養成コース

## 【がん薬物療法】

分子レベルでがん薬物療法に精通した薬剤師育成を目指して、令和6年度に薬剤師1名が大学院に入学し、基礎研究を実施している。また、がん専門薬剤師の育成にも努めている。

## 【病理】

病理専攻医、病理専門医、病理部技師、学部学生を対象とした病理診断・細胞診診断・分子病理診断のカンファレンスを原則として毎週開催した。また、病理専門医の既取得者に対して、分子病理専門医試験受験の推進プロモーションを行った。また、令和6年10月12日に開催された病理学会九州沖縄支部主催「秋の病理学校」に研修医、学生の参加を募り、3名の参加を得た。

## 【放射線】

大学院生を確保するため、大学院入学の興味を高めるための講義や実習を積極的に実施している。放射線治療専門医の増加も目指し、放射線治療により興味をもってもらうために、専攻医への講義を行いながら診療経験を積めるように配慮している。

## 【小児がん医療】

九州各県、山口県、愛媛県合同で毎月小児がん拠点病院TV会議を開催しており、症例検討会を行っている。学生受け入れ時には参加できる体制を整え、小児がんの現場や、最新治療についての情報を伝える場を設けている。

## 2. がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース

## 【がん看護】

宮崎大学の「がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース」の特色を生かした内容でカリキュラムを組んでおり、積極的に広報活動を行っている。令和5年度から学生1名、令和6年から学生1名の受け入れを行っており、現在2名が在籍している。

研究テーマとしては、2名ともががん看護領域では研究成果が極めて少ない「がん予防・がん教育」に注目して大学生や専門学校生を対象に研究を行っている。

また、宮崎県は国内でも高齢化率の高い地域であることから、高齢がん患者の意思決定への支援は重要であり、高齢者機能評価や高齢者特有のQOL評価に関する研究を推進している。

今後、新たな治療法等について情報を収集するために、看護学生、大学院生、看護師など日本がん看護学会などへの参加を促し多職種連携などの視点から看護師の役割を再考することで学びを深化させる予定である。

さらに「がん看護研究の推進を図る」ことを目標に、適宜がん看護研究の相談にも応じて学会発表などを行っている。

なお、本看護学研究科では、ゲノム医療や小児・希少がんをテーマとしている教員も複数おり、定期的な講演会なども共有できている。

## 3. がん専門医療人養成プログラム(インテンシブ)

がん専門医療人育成プログラム(インテンシブ)において、地域でのがん専門医療人の充足や、がんの標準治療から終末期の緩和ケアに関わる医療人の育成を目的として、令和6年9月から11月にかけて宮崎大学がんセミナーを開催した。総論(がん薬物療法、放射線療法、病理学、緩和医療など)から各論(肺がん、乳がん、胃がん、大腸がんなどの代表的な腫瘍及び小児がん、皮膚がんなどの希少がん)まで、13回(26コマ)のセミナーを開催した。院内外から医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など延べ182名の多職種の医療人が参加した。

#### 4. 放射線治療専門医養成コース(インテンシブ)

放射線治療専門医育成コース(インテンシブ)では、放射線治療医に必要な基礎科目20コマ(放射線生物学、放射線防護、安全管理)・臨床科目20コマ(放射線治療総論、放射線腫瘍学、治療計画)について計画的に講義を実施した。放射線治療専門医試験前には集中講義も行った。

##### ○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

テーマ①のがん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コースの中で学生2名を受け入れ、研究テーマとして、2名ともががん看護領域では研究成果が極めて少ない「がん予防・がん教育」に注目して大学生や専門学校生を対象に研究を行っており、がん予防の推進を行う人材育成も目指している。

#### 実績を踏まえた成果(学生教育の観点での成果について記載すること)

##### ○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

#### 1. 包括的がん専門医療人養成コース

##### 【がん薬物療法】

令和6年度に薬剤師1名が大学院に入学し、がん分子標的薬の耐性化機構を明らかにし、耐性克服法を開発することを目的に研究を展開している。

##### 【病理】

令和6年度は病理専門医、分子病理専門医試験の受験者がいなかったが、取得の必要性、意欲を感じる病理専門医、大学院生は増えたと思われる。また、講義、研究室配属、カンファレンスを通じて、学生が病理医、研究医、大学院を目指す動機付けを行うことができたと思われる。

##### 【小児がん医療】

小児血液がん専門医試験に必要な知識の整理を行い、来年度以降の試験の準備を行っており、来年度1人受験予定である。また、リサーチカンファレンスを定期的に行うことで、研究の重要性の理解や、研究への意欲を感じる若手医師が増加したと思われる。

#### 2. がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース

##### 【がん看護】

宮崎大学の「がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース」の特色を生かした内容を再検討し、特に、教育の特色に挙げている「医療資源の乏しい地域のがん医療への取り組みを学ぶ」という点では、宮崎県の医療事情を踏まえて目標が達成できる実習場所の新規開拓及びカリキュラムの再編成を行い、令和3年1月25日付けで38単位の専門看護師教育課程として認定された。

また、宮崎大学の「がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース」の教育の特色に挙げている「がん看護研究の推進を図る」ために、令和5年度と令和6年度に受け入れた大学院コースの学生2名は大学生や専門学校生を対象に「がん予防・がん教育」をテーマに看護研究を進めている。

さらに、学部生と大学院生が共に学ぶ講義・演習(コミュニケーションスキル：NURSEの演習など)を意識的に増やしたことで、がん看護専門看護師について早くから興味を持ち、将来がん看護専門看護師を目指したいという声も聞かれている。

がんゲノム医療の推進や小児・希少がんの対象者へのケアにあたり、看護職へのゲノム医療や小児・希少がんに関する知識・実践力の向上が急務である。本看護学研究科では、ゲノム医療や小児・希少がんをテーマとしている教員もおり、定期的な講演会なども共有できている。今後も、看護学生、大学院生やがん医療に携わる一般看護職への教育基盤の構築につなげるための学会参加を進めていく予定である。

#### 3. がん専門医療人養成プログラム(インテンシブ)

がん専門医療人育成プログラム(インテンシブ)において、令和6年度宮崎大学がんセミナーを開催した。がん診療の基本と現在の標準的治療について各領域の第一線で活躍している医師等を講師とするガイドラインや最新のエビデンスに基づいた内容のセミナーであり、院内外から医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など延べ182名の多職種の医療人が参加した。講義の内容について、アンケートの回答が得られた166名では、非常に良かった：122名(73%)、良かった：44名(27%)の結果であり、総じて好評であったと考える。また、医師1名、遺伝カウンセラー1名の計2名の修了者が得られた。

#### 4. 放射線治療専門医養成コース(インテンシブ)

放射線治療医に必要な知識を、基礎科目・臨床科目の講義を通して学んだ。放射線治療専門医試験前には集中講義も行い、専門医試験に必要な知識の整理も行った。令和6年度に1名が放射線治療専門医を取得した。

##### ○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

テーマ①のがん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コースの中で令和5年度と令和6年度に受け入れた大学院コースの学生2名は大学生や専門学校生を対象に「がん予防・がん教育」をテーマに、がん予防に関しても看護研究を進めている。

## 2. 各事業の取り組み状況

### ①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）

#### 1. 大学院コース

包括的がん専門医療人養成コースでは、令和6年度に薬剤師1名が大学院に入学し、がん分子標的薬の耐性化機構について研究を行っている。今後も学生の受け入れを推進し、テーマ①のがん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成を図っていく予定である。

また、がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コースに令和5年度と令和6年度に受け入れた学生2名が「がんプロ」経費によるがん看護学会に参加すること等で、最新の専門的情報を得ることができ、「がん予防・がん教育」に関する研究を推進できている。テーマ①のがん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材育成や、テーマ②のがん予防の推進を行う人材育成を行っている。

#### 2. インテンシブコース

がん専門医療人養成プログラムでは、院内外から医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など延べ182名の多職種の医療人の参加が得られ、2名の修了者が得られた。令和6年度はがん治療の専門医を目指す医師はみられなかったが、今後もがん治療専門医の育成を推進していく予定である。また、放射線治療専門医育成コースでは、放射線治療医を目指す医師の育成を目的として、放射線腫瘍学を中心とした臨床腫瘍学全般および生物学、物理学の広い知識を学べる教育を行っている。また、知識や視野を広げるために、他科・他職種とのカンファレンスや研究会の実施、放射線治療に関する学会の参加を積極的に行っており、令和6年度は1名が放射線治療専門医を取得した。現在放射線科専門医取得前の6名を対象に毎週講義を行っており、大学院生の確保に繋げていきたいと考えている。

### ②シンポジウム、セミナー、講習会等

#### 【宮崎大学がんセミナー】

総論(がん薬物療法、放射線療法、がん病理学など)から各論(肺がん、乳がん、胃がん、大腸がんなどの代表的な腫瘍及び小児がん、皮膚がんなどの希少がん)まで、13回(26コマ)の講演会を開催し、延べ182名の多職種の医療人(医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など)が参加した。がん診療の基本と現在の標準的治療について各領域の第一線で活躍している医師等を講師とするガイドラインや最新のエビデンスに基づいた内容のセミナーであり、がん診療の総論から各論について最新の知識を得るとともに理解を深めることができたと考える。

#### 【がん看護】

以下の2つの講演会を令和7年3月までに予定している。

講演会1: 「QOL評価の理論と実際」立命館大学 総合科学技術機構 教授 鈴嶋よしみ先生

鈴嶋先生は代表的なQOL尺度“SF-36”において、日本人の概念構造に沿った“3コンポーネント・スコアリング”を開発された。QOLは「がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース」にも用いられており、その理解を深める狙いがある。

講演会2: 「多職種連携で支えるホームホスピス」ホームホスピス宮崎理事長 市原美穂先生

宮崎で先進的な取り組みをされているホームホスピスの実践を共有することで、多職種連携がもたらすケアの質の向上や社会貢献につながる具体的な示唆を得ることを目的として企画した。

講演会の開催によりがんプロの存在の周知の機会にも繋げる。さらに、ジェネラリストの教育のみならず、地域のがん看護専門看護師や多職種間のみならず学生や教員間の情報共有、自己研鑽に努め、地域がん医療の充実・向上に繋がると考えている。

### ③地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

がん看護専門看護師養成を機に設立した「宮崎大学がん看護研究会」のホームページ上で、がんプロ講演会の案内を掲載した。また、本学医学部ポータルサイトへの研修案内を掲示し学部の学生をはじめ大学病院スタッフへも参加を呼び掛けた。

### ④大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

今年度は、学生が不在であるため学生が直接大学関連病院と関わることはなかったが、附属病院で開催される緩和ケア症例検討会ならびに附属病院遺伝カウンセリング部主催の症例検討会にがんプロ担当教員が継続して参加することにより、教員のFaculty Development (FD)の向上を図るとともに、学生受入時にこれらの検討会に参加できるよう体制を整えている。



### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

#### 理由・分析等

令和6年度は、大学院コースとして、包括的がん専門医療人養成コースに学生1名、がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コースに学生1名の受け入れを行うことができ、がん診療に関わる人材育成を図っているが、今後もさらに学生の受け入れを増やしていく必要がある。

インテンシブコースでは、がん専門医療人養成プログラムにおいて、多職種の医療人(医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師など)の多数の参加や2名の修了者が得られ、がん診療の総論から各論について理解を深めることができた。放射線治療専門医育成コースでは、放射線治療専門医取得を目指して現在計画的な教育を実施しており、令和6年度は1名が放射線治療専門医を取得することができた。

#### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

大学院コースとして、現在包括的がん専門医療人養成コースに学生1名、がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コースに学生2名を受け入れており、がん診療に関わる人材育成を図っているが、今後もさらに学生の受け入れを増やしていく必要がある。

がん専門医療人養成プログラム(インテンシブコース)では、宮崎大学がんセミナーにおいて総論(がん薬物療法、放射線療法、がん病理学など)から各論(肺がん、乳がん、胃がん、大腸がんなどの代表的な腫瘍及び小児がん、皮膚がんなどの希少がん)まで幅広い講演会を開催し、今後も地域でのがん診療の充実のためにがん治療専門医の育成を推進していく予定である。また、病理診断や放射線治療の大学院生の確保に努める必要があり、病理に関しては、がん専門医療人養成プログラム(インテンシブコース)の受講者の中から、大学院コースへの加入者や病理専門医・分子病理専門医試験の受験者・合格者を増やしていけるようにプロモーションしており、これを継続して、地域がん診療を支える病理医を育成していく。また引き続き、講義、研究室配属、カンファレンスを通じて、学生が病理医、研究医、大学院を目指す動機付けを心がけていきたいと考えている。放射線治療に関しては、放射線治療専門医育成コース(インテンシブコース)の活動の中で放射線治療専門医の育成とともに、大学院生の確保に繋げていきたいと考えている。

がん看護については、現在学生2名は「がん予防・がん教育」をテーマに看護研究を進めており、テーマ①:がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成だけでなく、テーマ②:がん予防の推進を行う人材養成にも力を入れている。がん看護専門看護師養成コースは38単位の専門看護師教育課程として認定されており、今後も大学院生確保のための活動を継続していく所存である。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

■ 英文誌・和文誌・国際学会・国内学会等での発表一覧

大学名	宮崎大学
-----	------

○ 和文誌

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	がん専門医療人育成プログラム（インテンシブ）	植田雄一, 池田 奈央子, 清原 博史, 船ヶ山 まゆみ, 加藤 彩, 林 透, 山口 昌俊, 土井 宏太郎, <u>岩井 美奈代</u> , 川野 純子, 西村 令喜, 当院のHBOC診療体制の現状と宮崎県におけるHBOC診療の課題単施設後ろ向き研究, 宮崎県医師会医学会誌48, 2, 215-221, 2024. 9月

○ 国内学会

	学生の所属コース名	内容 ※がんプロ学生の氏名には下線を引くこと
1	包括的がん専門医療人養成コース	新地瑠海, <u>nal-IRI+5-FU/I-LV療法開始時におけるNLR及びCARと治療継続についての検討</u> , 第14回日本臨床腫瘍薬学会学術大会2025（横浜）2025年3月15日, 16日
2	がん専門医療人育成プログラム（インテンシブ）	植田 雄一, 柏葉 匡寛, 船ヶ山 まゆみ, 池田 奈央子, 清原 博史, 石川 章子, 満松 恵, 阿部勝則, 上井 優, 山口 昌俊, <u>岩井 美奈代</u> , 横野 晋也, 川野 純子, 玉田 修吾, 乳がん専門病院としての地域HBOC診療体制の現状と今後の課題, 第4回JOHBOC学術集会（東京）2024年5月18日
3	がん専門医療人育成プログラム（インテンシブ）	松本 恵, 佐々木 規子, <u>岩井 美奈代</u> , 大畑 尚子, 川野 純子, 川野 奈々江, 柊中 智恵子, 鈴木 智恵子, 田浦 裕三子, 塚谷 延枝, 松崎 佐和子, 地域活性化委員会九州・沖縄地区の活動報告, 第48回日本遺伝カウンセリング学会学術集会（東京）2024年8月2日
4	がん看護専門看護師養成コース	<u>佐藤伊代</u> , 田上博喜, 伊豆倉理江子, 甲斐友梨, 高間有紀, 木下由美子, 看護系大学生のヘルスリテラシーとがんのスティグマに関する実態調査研究, 第29回日本看護研究学会九州・沖縄地方会（宮崎）2025年3月9日
5	がん看護専門看護師養成コース	<u>川野理沙</u> , 伊豆倉理江子, 甲斐友梨, 高間有紀, 内田倫子, 田上博喜, 木下由美子, 金岡麻希, 伊豆倉理江子, 内田倫子, 甲斐友梨, 高間有紀, 看護専門学校生のヘルスリテラシーとがんのスティグマに関する実態調査研究, 第29回日本看護研究学会九州・沖縄地方会（宮崎）2025年3月9日
6	がん看護専門看護師養成コース	<u>新谷真美</u> , 金岡麻希, 内田倫子, <u>川野理沙</u> , 田上博喜, 木下由美子, 食道がんで手術を受ける患者の術前の高齢者機能評価簡易ツールG8とQOLの関連, 第29回日本看護研究学会九州・沖縄地方会（宮崎）2025年3月9日
7	がん看護専門看護師養成コース	金岡麻希, 田原美紀, 甲斐友梨, <u>佐藤伊代</u> , 木下由美子, 前立腺がん患者におけるRALP術後QOLの経時的変化と個別支援の必要性, 第29回日本看護研究学会九州・沖縄地方会（宮崎）2025年3月9日
8	がん看護専門看護師養成コース	伊豆倉理江子, 金岡麻希, 内田倫子, <u>川野理沙</u> , 甲斐友梨, 高間有紀, 木下由美子, 結腸がん患者におけるGeriatric-8スコアと術前QOL・機能・症状との関連性の検討, 第29回日本看護研究学会九州・沖縄地方会（宮崎）2025年3月9日

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	鹿児島大学
コーディネーター	鈴木 紳介
事務担当者	梅田 公貴

## 1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

各テーマに対する今年度の実績
<p>1) 大学院コースとしての先端がん診断・治療コースと2つのインテンシブコース（がん専門薬剤師養成コース、遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース）を設けている。インテンシブコース（がん専門薬剤師養成コース）には参加者はいなかったものの、インテンシブコース（遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース）には5名が参加した（テーマ①③）。</p> <p>2) 日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」1名、日本人類遺伝学会「臨床遺伝専門医」1名を輩出した（テーマ①②③）。</p> <p>3) テーマ①②に対して、多職種構成員によるがんゲノム専門家会議（鹿児島大学病院 エキスパートパネル）を週1回計50回、事例検討会（鹿児島大学病院 Cancer Board）を月1回 計10回、公開講座（鹿児島県がん診療連携拠点病院事業四部門合同研修会及び部門会）を2回、市民公開講座を1回 主催（開催予定を含む）した。大学院生の出席を促している。</p>
実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）
<p>鹿児島大学病院 エキスパートパネル、鹿児島大学病院 Cancer Board）、鹿児島県がん診療連携拠点病院事業四部門合同研修会及び部門会）、市民公開講座には、大学院生の出席を促した。</p> <p>また、がん遺伝子パネル検査外来、遺伝カウンセリング外来への陪席も促し、2024年4月には、日本臨床腫瘍学会「がん薬物療法専門医」1名を輩出した。</p>

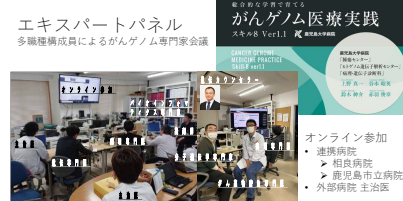
## 2. 各事業の取り組み状況

①教育コース（大学院コース、インテンシブコース）
<p>（大学院コース）「先端がん診断・治療コース」では、同コースに在籍する学生はいないものの、「鹿児島大学病院 エキスパートパネル」、「鹿児島大学病院 Cancer Board」、「鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 四部門合同研修会及び部門会」、「市民公開講座」への学生の参加を推奨し、多職種で連携して医療を実践するための知識や技術の獲得を促しつつ、医療実習（Cancer board、エキスパートパネル、遺伝カウンセリング）を充実させるための土壌を整えた。</p> <p>（インテンシブコース）「遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース」は、科学的根拠に基づいたがん予防の推進を行う人材養成を目的に、重要なコースであり、5名が参加した。</p> <p>インテンシブコース（がん専門薬剤師養成コース）には参加者はいなかった。</p>

## ②シンポジウム、セミナー、講習会等

### 【鹿児島大学病院 エキスパートパネル】

毎週主催、がん遺伝子パネル解析症例数 計267例、多職種参加人数 のべ1,015人



### 【鹿児島大学病院 Cancer Board】

第1回 (4/17) : 乳房悪性葉状腫瘍の再発転移

第2回 (5/15) : 視交叉・下垂体茎部原発 腺様嚢胞癌の1例

第3回 (6/19) : 抗CTLA-4抗体/抗PD-1抗体併用療法後にサイトカイン放出症候群を発症するも救命し得た悪性胸膜中皮腫の1例

第4回 (7/17) : 後腹膜血管肉腫に対してスパーサー留置後陽子線治療を行った症例

第5回 (9/18) : 若年、危険因子のない肝細胞癌症例

第6回 (11/20) : 生体腎移植後の、MSI-H進行食道胃接合部腺癌

第7回目 (12/18) : 胸腺腫typeB3からthymic adenoid cystic carcinomaに病理診断が改訂された症例

第8回・9回・10回は2025年1月15日・2月19日・3月19日・実施予定

### 【鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 四部門合同研修会及び部門会】

第1回 (8/24) : 「がん性疼痛治療の選択肢としての神経ブロック」 (講師: 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 先進治療科学専攻 生体機能制御学講座 侵襲制御学 助教 榎畑 京氏)

第2回 (2025/2/8予定) : 「院内がん登録データ活用について (仮)」 (講師 国立がん研究センター 石井 太祐氏)

「がん診療連携協議会と”県内のがん情報” 収集、集計、公開、がん対策、研究 (仮)」 (講師: 四国がんセンター寺本典弘氏)

## ③地域や社会への情報発信の取り組み (ホームページ、SNS等の実績含む)

### 【市民公開講座】

第1回 (10/6) : 「知ってほしい「がん」と栄養」～美味しく食べる工夫～ (講師: 南九州大学 健康栄養学部 管理栄養学科 准教授 竹元 明子氏)

知ってほしい「がん治療と皮膚障害」～今から始められるがん治療中のスキンケア～ (講師: 鹿児島大学病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 竹原 沙織氏)

### 【HP更新】

インテンシブコースへの申込周知のため、医歯学総合研究科HPにて申込案内のページを設けた。

## ④大学関連病院との連携 (特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して)

鹿児島県がん診療連携拠点病院事業 四部門合同研修会及び部門会は、年2回開催され、1回目は県内27施設、約170名 (遠隔地にはweb発信) の参加者を得た。この中には、患者会などの参加もあった。2回目は講演会と各部門の研修を開催予定である。

## 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

### 理由・分析等

(インテンシブコース)「遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーバイランス技術者養成コース」は、科学的根拠に基づいたがん予防の推進を行う人材養成を目的とした重要なコースであり、5名が参加した。「がん専門薬剤師養成コース」には参加者はいなかった。

### 自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

大学院生に対する座学や講演会企画のみではなく、医療実習 (Cancer board、エキスパートパネル、遺伝カウンセリング) への参加を進める。

## 「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート

大学名	琉球大学
コーディネーター	福島 卓也
事務担当者	宮里 涼夏

## 1. 概要

テーマ
<p>○テーマ①：がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成</p> <p>○テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成。</p> <p>○テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成</p>

## 各テーマに対する今年度の実績

<p>テーマ①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん薬物療法専門医取得を目指す医師1名が大学院コースに入学した。</li> <li>・インテンシブコース「痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース」には、県内各地のがん診療病院で、緩和ケア・がん看護に携わる臨床看護師7名が受講した。</li> </ul>
--

## 実績を踏まえた成果（学生教育の観点での成果について記載すること）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん薬物療法専門医コースには医師1名が入学した。本医師はe-learning受講の他、当学コースの特徴であるESMO認定の緩和ケアチームでの実習に加え、長崎大学との連携により単位互換制度を締結した在宅・地域医療実習に参加予定である（2025年1月14日より1週間の予定）</li> <li>・インテンシブコース「痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース」には、臨床看護師7名が受講した。今回はキャンパス移転に伴い、例年半年で提供している内容を10月～12月と圧縮したスケジュールでコースを提供することとなったが、全員欠席もなく、熱心に講義、演習へ参加していた。授業では、各自それぞれが臨床で抱えている困難や疑問点について、非常勤講師（がん看護専門看護師、老人看護専門看護師、緩和ケア認定看護師等）へ積極的に質問し、事例検討やロールプレイ等のグループワークにも積極的に参加しディスカッションを行う等、受講生の主体的な参加が見られた。授業最終日に、本コースに対する評価（アンケート）を行ったが、エンド・オブ・ライフケアの重要性の理解度やプログラムに対する満足度については、全員が「大変そう思う」と回答していた。自由記載では、「それぞれの内容に沿って専門性をもつ講師が教えてくださったのでとても有意義な講義だった。今後も患者目線で看護できるようにしたい。」、「資料もわかりやすく、同じことで悩んでいる看護師と話し合うことができるとてもいい刺激になった。今回の学びを病棟でも活かしたい。」、「これまで緩和ケアに対してどうしてよいかわからなかったが、学習することで日々の業務でも活かせることができた。自分が学んだことをさらに現場にも提供して、スタッフがより良いケアを提供できるようにしたい。」等の意見があった。令和7年9月には、今回のエキスパートナース養成コースでの学びを具体的にどのように臨床現場に活用したのか、その実践内容についてプレゼンテーションを予定している。</li> </ul>
---

## 2. 各事業の取り組み状況

① 教育コース（大学院コース、インテンシブコース）
<p>沖縄は島嶼県として離島おけるがん医療の均てん化の問題を抱えている。インテンシブコースには県内各地から、臨床看護師7名が参加し、日本緩和医療学会が提供しているELNEC-Jコアカリキュラムを活用したプログラムを提供し、緩和ケアに関する知識・技術向上を支援した。がん薬物療法専門医コースに入学した医師は、本プロジェクトから導入された長崎大学との連携による在宅・地域医療実習に2025年1月14日より1週間参加予定である。</p>
② シンポジウム、セミナー、講習会等
<p>2025年1月16日 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科科長 米盛勸氏によるがんセミナーを開催し、がん医療の最先端の情報について、医師、看護師を対象に講演頂く予定である。</p> <p>今年度中に、オンラインを活用したがん看護セミナーも開催予定である（講師調整中）。</p>

③ 地域や社会への情報発信の取り組み（ホームページ、SNS等の実績含む）

医学部HPから九州がんプロへのリンクを設置して活動を周知している。琉球大学独自のHPの解説も準備中である

④ 大学関連病院との連携（特に「がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」との連携に関して）

インテンシブコースには、県内の地域がん診療連携拠点病院看護部から多数の参加があった。がん薬物療法専門医コースについても、地域がん診療連携拠点病院の医師に広く勧誘している。また講演会もハイブリッド形式として、これらの病院にアナウンスしており、オンライン参加できる体制にしている。

### 3. 自己評価

[選択肢] a:十分に目標を達成できている / b:目標を達成できている / c:あと少しで目標を達成できる / d:目標を達成できていない

c:あと少しで目標を達成できる

理由・分析等

- ・がん薬物療法専門医コースに1名の入学者があり、またインテンシブコースを看護師7名が受講した。
- ・今年度は、がん専門看護師を目指す大学院生の入学がなかったが、大学病院との連携によるリクルートの結果、令和7年度は、がん看護専門看護師コースに看護師3名（うち大学病院看護師2名）が入学を予定していることから、県内の看護系大学大学院とも連携しながら、より効果的な養成を図っていきたいと考える。
- ・西普天間キャンパス移転準備など学内の事業もあり、予定していたセミナーが十分開催できなかった。

自己評価を踏まえた、来年度に向けての改善点等

- ・大学院コースである「痛みの治療・ケア、がん関連学際領域等を担う地域実践型がん看護専門看護師コース」へ入学する看護師および今年度に続くがん薬物療法専門医コースへ入学する医師獲得を目指す。
- ・西普天間キャンパス開学後、がん医療のエキスパートによるセミナーを企画する。

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ セミナー・シンポジウム等の開催実績

開催したセミナー・シンポジウム等について、適宜、行を増やして記入してください。

	大学名	セミナー・シンポジウム等名称 ※主催以外による実施の場合は、その旨を末尾にカッコ書きで記入。	R6実績					
			開催回数	参加者数			参加大学数	
				※自動	(学内)※ 連携大学含	(学外)		うち拠点外 大学数
1	九州がんプロ	九州がんプロ履修生による「教育研究成果発表会」	1	60	58	2	10	0
2	九州がんプロ	九州大学・大分大学合同カンファレンス	1	26	15	11	2	0
3	九州がんプロ	三拠点合同セミナー（1月30日開催予定）	1	-	-	-	-	-
4	九州がんプロ	外部評価会（2月21日開催予定）	-	-	-	-	-	-
5	九州がんプロ	北部エリア5大学合同市民公開講座（3月1日開催予定）	-	-	-	-	-	-
6	九州大学	先端医用量子線技術科学コース講演会（次回、2月8日開催予定）	1	229	14	215	33	28
7	九州大学	九州大学病院がんセミナー（共催）（次回、1月28日、3月25日開催予定）	2	197	137	60	7	2
8	九州大学	九州大学病院がんセンター 市民公開講座（共催）（2月22日開催予定）	-	-	-	-	-	-
9	九州大学	がんゲノム医療セミナー（共催）（今年度2回開催予定）	1	188	148	40	6	1
10	九州大学	小児緩和ケアチーム勉強会（共催）（次回、3月28日開催予定）	5	231	143	88	9	1
11	福岡大学	骨髄腫福岡セミナー2024（後援）	1	55	2	53	1	0
12	福岡大学	AYAサポートチーム研修会（後援）		0				
13	久留米大学	久留米大学「次世代の九州がんプロ養成プラン」特別セミナー 『乳癌専門医が語る手術に代わる乳癌の新しい治療法』	1	43	32	11	0	0
14	久留米大学	久留米ネットワーク・がんプロラボ企画セミナー予定	-	-	-	-	-	-
15	産業医科大学	市民公開講座（共催）	1	86	0	86	1	0
16	産業医科大学	合同キャンサーボード及び両立支援研修会（併催）	1	50	45	5	1	0



17	佐賀大学	がん診療セミナー（共同主催）	6	373	356	17	6	0
18	佐賀大学	令和6年度「次世代の九州がんプロ養成プラン」事業講演会（共催） 09. 第8回鶴居リンパ腫ワークショップ in 福岡2024	1	49	43	6	24	0
19	長崎大学	長崎大学がんプロ記念講演会 兼 長崎県がん診療連携拠点病院研修会（2月10日開催予定）	-	-	-	-	-	-
20	長崎大学	長崎県がん診療連携拠点病院研修会（共催）	2	171	69	102	2	0
21	長崎大学	第1回長崎県がん地域連携パス研修会（共催）（次回、2月20日開催予定）	1	119	19	100	1	0
22	熊本大学	消化器がんに関するセミナー（共催）	4	175	136	39	1	0
23	熊本大学	がん専門薬剤師養成・特別講演（共催）	3	97	97	0	1	0
24	大分大学	令和6年度第2回大分大学医学部附属病院市民公開講座 よくわかる、血液がんの治療 —白血病と悪性リンパ腫について—（大分大学医学部附属病院）（次回、2月開催予定）	1	39	6	33	0	0
25	大分大学	乳がんに関する特別講義 2024/5/22	1	114	112	2	1	0
26	大分大学	県民公開講座 第12回がん患者さんと家族の集い（共催）（2月開催予定）	-	-	-	-	-	-
27	大分大学	令和6年度がんプロインテンシブコース 事例検討会（次回、1月18日、3月15日開催予定）	4	45	25	20	4	2
28	大分大学	令和6年度次世代の九州がんプロ養成プラン 公開講座『がん看護の活動と魅力』 （次回、1月23日、3月開催予定）	2	64	15	49	7	5
29	宮崎大学	がんセミナー	13	182	154	28	1	0
30	鹿児島大学	第10回鹿児島がんゲノム学術セミナー	1	50	30	20	2	0
31	鹿児島大学	鹿児島県がんゲノム・リキッドバイオプシー講演会	1	28	26	2	2	1
32	琉球大学	がんセミナー（共催）（1月16日開催予定）	-	-	-	-	-	-
合計（自動計算）			56	2,671	1,682	989	122	40

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

- コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）
- 指導技術向上等のためのFD
- ホームページ更新／SNS投稿回数

	大学名	コース履修者・修了者の満足度調査（アンケート等）		指導技術向上等のためのFD		ホームページ更新／SNS投稿回数	
		実施数	実施人数	実施回数	参加人数	ホームページ更新回数	SNS投稿回数
1	九州大学	1		32	125	27	22
2	福岡大学	0	0	0	0	1	0
3	久留米大学	0	0	0	0	8	0
4	産業医科大学	0	0	0	0	8	0
5	佐賀大学	0	0	0	0	1	0
6	長崎大学	0	0	0	0	15	0
7	熊本大学	0	0	0	0	6	0
8	大分大学	0	0	0	0	2	0
9	宮崎大学	0	0	0	0	1	1
10	鹿児島大学	0	0	0	0	1	0
11	琉球大学	0	0	0	0	0	0
合計（自動計算）		1	0	32	125	70	23

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース以外）の受入実績

	大学名	テーマ	教育プログラム・コース名称	対象職種	R6	
					受入実績	修了者数
1	九州大学	テーマ①	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	医師	14	11
2		テーマ①	放射線治療学コース	医師	0	0
3		テーマ②	がん予防とプレシジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	医師	0	2
4		テーマ①	次世代の病理学コース	医師	1	0
5		テーマ③	医用量子線データサイエンティストコース	医学物理士	19	13
6		テーマ①	がんゲノム専門細胞検査士コース修士課程	その他（細胞検査士）	1	0
7		テーマ③	がん創薬研究薬学コース博士課程	薬剤師	2	0
8	福岡大学	テーマ①	がんサバイバーの苦痛に対応できるがん専門医療人育成コース	医師	0	0
9	久留米大学	テーマ①	先端癌治療学悪性腫瘍専門医養成ユニット「放射線療法専門医養成コース」	医師	1	0
10		テーマ①	専門職養成コース がん看護分野 CNS養成	看護師	3	1
11	産業医科大学	テーマ①	がん治療と就労の両立支援医師養成コース	医師	2	0
12		テーマ①	がんゲノム医療重点コース	医師	3	0
13	佐賀大学	テーマ①	高度化するがん医療に対応するがん治療専門医育成コース	医師	1	0
14	長崎大学	テーマ①	多目的がん診療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	医師	1	0
				歯科医師	0	0
15		テーマ③	がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	医師	3	0
				歯科医師	0	0
16		テーマ②	遺伝看護・遺伝カウンセリングコース（修士課程）	看護師	2	0
17	熊本大学	テーマ①	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	医師	4	2
18	大分大学	テーマ③	包括的がん治療専門医療人養成コース	医師	5	0
				薬剤師	0	0
19		テーマ①	地域医療の様々なニーズに対応する医療人養成コース	看護師	2	0
20	宮崎大学	テーマ①	包括的がん専門医療人養成コース	看護師	0	0
				薬剤師	1	0
21		テーマ①	がん患者及び家族のQOL向上を目指すがん看護専門看護師養成コース	看護師	2	0
22	鹿児島大学	テーマ①	先端がん診断・治療コース	医師	0	0
				薬剤師	0	0
23	琉球大学	テーマ①	痛みの治療・ケア、がん学際領域等を担う薬物療法専門医コース	医師	1	0
24		テーマ①	痛みの治療・ケア、がん関連学際領域等を担う地域実践型がん看護専門看護師コース	看護師	0	0
				医師 小計（自動計算）	36	15
				歯科医師 小計（自動計算）	0	0
				薬剤師 小計（自動計算）	3	0
				看護師 小計（自動計算）	9	1
				その他 小計（自動計算）	20	13
				合計（自動計算）	68	29

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ 教育プログラム・コース（インテンシブコース）の受入実績

	大学名	テーマ	教育プログラム・コース名称	対象職種	R6	
					受入実績	修了者数
1	九州がんプロ	テーマ①②③	次世代のがん専門医療人養成インテンシブコース	その他（各大学大学院生・各大学附属病院および九州内関連病院の医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、遺伝カウンセラーなど多職種の医療従事者）	74	0
2	福岡大学	テーマ①	多職種連携がん専門医療人育成コース	医師	1	-
				看護師	213	-
				薬剤師	4	-
				その他（理学療法士等）	9	-
3	久留米大学	テーマ①	大学院医学研究科修士課程「科目等履修生制度」	その他（地域医療に携わる医療従事者全般）	0	0
4	産業医科大学	テーマ①	がん治療と就労の両立支援医師養成コース	医師	0	0
5		テーマ①	がんゲノム医療重点コース	医師	0	0
6	熊本大学	テーマ①	がん患者個別のライフステージ・QOLに応じたがん対策を推進するがん専門薬剤師コース	薬剤師	1	1
7	大分大学	テーマ②	がん予防とがんサバイバーに対する医療人養成コース	その他（医療従事者全般）	9	0
8	宮崎大学	テーマ①	がん専門医療人育成プログラム	医師	1	0
				薬剤師	0	0
				看護師	0	0
9		テーマ①	放射線治療専門医育成コース	医師	0	0
10	鹿児島大学	テーマ①	遺伝性腫瘍のカウンセリングとサーベイランス技術者養成コース	医師	0	0
				薬剤師	0	0
				看護師	0	0
11		テーマ①	がん専門薬剤師養成コース	薬剤師	0	0
12	琉球大学	テーマ①	痛みの治療・ケアを担う緩和ケアエキスパートナース養成コース	看護師	7	7
医師 小計（自動計算）					2	0
歯科医師 小計（自動計算）					0	0
薬剤師 小計（自動計算）					5	1
看護師 小計（自動計算）					220	7
その他 小計（自動計算）					92	0
合計（自動計算）					319	8

「次世代の九州がんプロ養成プラン」内部評価・外部評価シート  
数値実績 一覧

■ 受験・合格・資格取得者数

	コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	養成するテーマ ※自動	受験・合格・資格取得者数			
				取得が見込まれる各学会等認定資格のうち 受験や合格実績がある資格名	R6		
					受験者	合格者	資格取得者
		計		21	16	15	
1	九州大学大学院医学系学府医学専攻	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	テーマ②	がん治療認定医（見込み）（受験日2024年10月20日、合格日2024年12月12日）	1	1	
2	九州大学大学院医学系学府医学専攻	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	テーマ②	第20回がん薬物療法専門医（受験日2024年11月26日、資格取得予定日2025年4月1日合格日不明）	1		
3	九州大学大学院医学系学府医学専攻	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	テーマ②	婦人科腫瘍専門医試験, 2024/12/15に受験@東京	1		
4	九州大学大学院医学系学府医学専攻	個別化医療を推進する臨床腫瘍学コース	テーマ②	日本外科学会 外科専門医（受験日2024年8月25日、認定日2024年10月18日）	1		
5	九州大学大学院医学系学府医学専攻	がん予防とプレジジョンメディシンを目指す小児腫瘍学コース	テーマ②	認定小児科指導医（要件を満たせば申請後認定されるため、受験日、合格日はない）			1
6	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	医療科学専攻、放射線医療科学専攻	テーマ①	がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	1	1	1
7	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	医療科学専攻、放射線医療科学専攻	テーマ①	がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	1	1	1
8	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	医療科学専攻、放射線医療科学専攻	テーマ①	がん個別化医療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	1	1	1
9	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科	医療科学専攻、放射線医療科学専攻	テーマ①	多目的がん診療専門医師・歯科医師養成コース（博士課程）	1	1	1
10	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	肝臓専門医	2	1	0
11	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	がん治療認定医（日本がん治療認定医機構）	1	1	1
12	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	消化器外科専門医	2	2	2
13	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	消化器病専門医	1	1	1
10	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	日本内視鏡外科学会技術認定医	1	0	0
11	熊本大学大学院医学教育部	研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	消化器内視鏡専門医	1	1	1

12	熊本大学大学院医学教育部 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	乳癌マンモグラフィ読影認定医	1	1	1
13	熊本大学大学院医学教育部 研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース	テーマ①	外科専門医	1	1	1
14	大分大学大学院医学系研究科 包括的がん治療専門医療人養成コース	テーマ①	日本消化器病学会 消化器病専門医	1	1	1
15	大分大学大学院医学系研究科 包括的がん治療専門医療人養成コース	テーマ①	日本腹部救急医学会 認定医	1	1	1
16	大分大学大学院医学系研究科 包括的がん治療専門医療人養成コース	テーマ①	日本肝臓学会 肝臓専門医	1	1	1

文部科学省『次世代のがんプロフェッショナル養成プラン』採択事業



## 次世代の九州がんプロ養成プラン

TRAINING PROGRAM FOR NEXT-GENERATION HEALTH PROFESSIONALS  
WITH CANCER CARE IN KYUSHU

令和6年度 内部評価報告書

---

発行 令和7（2025）年2月  
編集・発行 九州大学大学院医学研究院 連携腫瘍学分野（九州がんプロ事務局）  
ijsganpro@jimu.kyushu-u.ac.jp  
<http://www.k-ganpro.com/>